

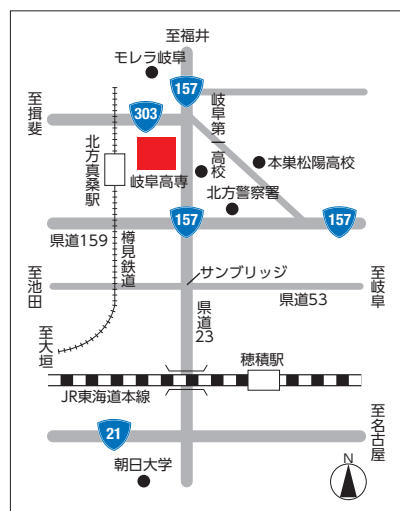
- 機械工学科
- 電気情報工学科
- 電子制御工学科
- 環境都市工学科
- 建築学科

■ 一般科目 (人文・自然)

専攻科

- 先端融合開発専攻

■ アクセス



- (岐阜から)
- ・岐阜バス「岐阜高専」下車 (平日のみ) 南へ1.2km
 - ・岐阜バス「モレラ岐阜」下車 南へ1.2km
 - ・岐阜バス「上真桑」下車 北へ1.5km
- (穂積から)
- ・岐阜バス「糸貫分庁舎・モレラ南口」下車 南へ0.7km
- (大垣から)
- ・樽見鉄道「北方真桑」下車 北へ1.2km

交通アクセス

<https://www.gifu-nct.ac.jp/about/access/>



独立行政法人 国立高等専門学校機構

岐阜工業高等専門学校

National Institute of Technology (KOSEN), Gifu College

〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑2236番2
TEL : 058-320-1211 (代表) FAX : 058-320-1220

<https://www.gifu-nct.ac.jp>



未来の自分を形に



独立行政法人 国立高等専門学校機構

岐阜工業高等専門学校



岐阜工業高等専門学校

National Institute of
Technology (KOSEN),
Gifu College

2025

科学技術に夢を託し、 人類愛と郷土愛に目覚める



シンボルマーク



本校のシンボルマークは公募により、建築学科の柴田良一教授の案が採用された。このシンボルマークは、本校から遠くに望む山並みと広がる空をイメージとし、緑色は学科を、空色は専攻科を表し、この二つが一体となって、高く、大きく伸び広がる可能性を表現している。また、スクールカラーであるエンジ色のダイヤモンドを、卒業生の母校を誇りに思う気持ちの結晶として埋め込んでいる。

校章



校章はかつての旧帝大が共通に用いていた徽章のもつ素朴、堅実、伝統を象徴するイメージをとり、大学の徽章の輪郭の中に、高専の文字を配したデザインとし、模様や図案を全く加えないもので、やがて卒業生が大学を卒業した者に伍して、人物、識見とも勝るとも劣らぬ技術者として活躍するであろうことを念願してデザインされたものである。

岐阜工業高等専門学校では、夢と希望に溢れる15歳の若者に入学していただいて、5年一貫の体験重視型教育により、科学や技術で人々や社会の「幸せ」に貢献できる人財（「人」は社会の「財」産という意味）を育成しています。国立高専では、卒業までに達成すべき到達目標を「モデルコアカリキュラム」として定め、どの国立高専を卒業しても国際的に通用する力を修得することができます。

私どもは、エンジニアのことを「ソーシャル・ドクター」と呼んでいます。病院のメディカル・ドクターとは違いますが、ソーシャル・ドクターとは、社会が病気になれば治療し、あるいは病気にならないように予防できる人財です。また、ソーシャル・ドクターは、新しい価値、新しい考え方、新しい方法を生み出すという「クリエイター」の側面も持ち合わせています。こうした人財は、文字通り社会の「財産」です。

本校は、全国に51ある国立高専の一つとして、昭和38年（1963年）に創立しました。機械工学科、電気情報工学科、電子制御工学科、環境都市工学科、建築学科の5つの学科と専攻科（先端融合開発専攻）があり、これまでに約9,000名の本科卒業生と約800名の専攻科生を社会に送り出してきました。本科5年卒業生には「準学士」の称号が与えられ、専攻科修了生には、大学改革支援・学位授与機構より「学士」（大学卒業の学位）が授与されます。60年余の歴史の中で、人財育成で社会の発展に大きく貢献してきました。

本校の教育の魅力・特色は、大括りに次の三点にまとめることができます。

一つ目は、「理解の深化」です。授業における思考体験と実験実習における実践体験を組み合わせ、知識を必要な場面で自在に使いこなす域まで理解を深めています。理論を学ぶと共に、実験実習を通じて、学生たちは実力を大きく成長させています。

二つ目は、「知恵の教育」です。実社会の課題を探究することで、課題解決する「知恵」を発揮する力を育んでいます。3年次の特別活動では「企業連携型事業アイデアソン」を実施しています。学生たちは仲間とチームを組み、地域企業等の「ホンモノ」の課題に対峙し、企業のエンジニアの方から直接指導を受け、「現場目線」で課題解決のアイデアを創出します。こうしたフィールドワークを通じて、社会で必要とされるチームワーク、コミュニケーション力、課題発見・解決力、柔軟な発想力、チャレンジ精神を育んでいます。また、課題解決にチャレンジすることで、社会貢献への「大きな志」も育んでいます。



岐阜工業高等専門学校
校長 大塚 友彦

目次

三つ目は、やりたいことを「トコトン」やれる校風です。個々の興味・関心に応じ、コンテスト活動(ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、デザインコンペティション等)、国際交流(令和6年度において計70名余の在校生がイギリス、アメリカ合衆国、フランス、ベトナム、シンガポール、台湾等の海外研修に参加)、クラブ活動(運動部系、文化・科学系、同好会)や高専祭(岐阜高専の文化祭)などの学校行事など、幅広い選択肢があります。学生たちは、多くの選択肢の中から興味あることに夢中に取り組んでいます。

大学受験に妨げられることなく学べるからこそ、学生たちは思い切ったチャレンジができ、結果として、大学生にも負けない実力を獲得しています。例年、求人倍率は30倍程度の高倍率で、就職希望者は有力企業に就職します。また、進学希望者は、名古屋大学や岐阜大学ならびに高専と関係の深い長岡技術科学大学・豊橋技術科学大学などの国公立大学への3年次編入学、あるいは本校専攻科へ進学します。

科学技術の急速な進展、少子高齢化、グローバル化、気候変動に加えて新型コロナウイルス感染症など、高専を取り巻く環境も変化し、高専卒業生に求められる資質や能力も変わりつつあります。その中でも、社会に大きく貢献できる人財を輩出する高専の役割は変わりません。

本校は、教育理念に基づき、科学技術に夢を託し、人類愛に目覚め国際性豊かで情報化社会の最前線で活躍するソーシャル・ドクターの育成を目指します。高専における教育・研究の質の向上、地域連携のさらなる強化、社会の変化に対応する教育改革について努力を重ねていく所存です。これからも皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

■ 本校の沿革	4-5
■ 本校の概要	6
■ 本校の教育方針	6-12
■ 研究の基本方針	13
■ 地域貢献の基本方針	13
■ 学科	14-27
■ 一般科目	14-15
■ 機械工学科	16-17
■ 電気情報工学科	18-19
■ 電子制御工学科	20-21
■ 環境都市工学科	22-23
■ 建築学科	24-25
■ 専攻科	26-27
■ 学校行事	28-29
■ 学生会	30
■ 専門展	31
■ 国際交流室活動	32-33
■ 地域貢献	34-35
■ 図書館	36
■ 情報処理センター	37
■ 学寮	38
■ テクノセンター	39
■ 組織	40-41
職員の現員	40
機構図	40
役職員	41
事務部等役職員	41
学校医等	41
■ 教育課程	42-45
■ 学生	46-47
入学定員学生数	46
外国人留学生	46
奨学生	46
出身県別学生数	47
専攻科出身学校別学生数	47
入学志願者数及び倍率	47
編入学志願者数及び入学者数	47
専攻科志願者数及び入学者数	47
■ 卒業生の進路	48-49
■ 財政	50
■ 施設	51

本校の沿革

昭和 37 年 11 月	社団法人岐阜工業高等専門学校設立協力会の設立認可
昭和 38 年 1 月	岐阜工業高等専門学校を岐阜県本巣郡真正町に設置決定
//	岐阜県各務原市鵜沼中学校（現鵜沼第一小学校）に仮校舎内定
昭和 38 年 4 月	本校設置、機械工学科、電気工学科、土木工学科の3学科で発足
//	初代校長に前岐阜大学工学部長 理学博士・飯沼弘司任命
昭和 39 年 3 月	第1期工事（1号館、寄宿舎A寮等）竣工
//	仮校舎から本校舎へ移転
昭和 39 年 6 月	図書館開館
昭和 40 年 3 月	第2期工事（2号館、実習工場、寄宿舎D寮）竣工
昭和 41 年 3 月	第3期工事（3号館、第一体育館、寄宿舎C寮等）竣工
昭和 41 年 4 月	事務部に庶務課及び会計課設置
昭和 41 年 12 月	武道館開き
昭和 42 年 5 月	プール開き
昭和 43 年 1 月	合宿所（凌雲荘）竣工
昭和 43 年 4 月	建築学科増設
昭和 44 年 3 月	第4期工事（建築学科棟、寄宿舎 B 寮等）竣工
昭和 46 年 4 月	事務部に学生課設置
昭和 47 年 3 月	図書館センター竣工
昭和 47 年 11 月	創立 10 周年記念式典挙行
昭和 48 年 2 月	電子計算機室増設
昭和 49 年 4 月	安藤記念館採納式挙行
昭和 53 年 4 月	第2代校長に前名古屋大学工学部長 工学博士・古屋善正任命
昭和 53 年 8 月	第13回全国高等専門学校体育大会を主管、開催
昭和 54 年 3 月	学校施設開放管理センター（第二凌雲荘）、排水処理施設竣工
昭和 55 年 3 月	第2体育館竣工
昭和 56 年 7 月	4号館竣工
昭和 58 年 11 月	創立 20 周年記念式典挙行
昭和 59 年 4 月	第3代校長に前岐阜大学工学部長 理学博士・脇田仁任命
昭和 60 年 3 月	福利施設（伊吹）竣工
昭和 63 年 4 月	電子制御工学科増設
平成 2 年 3 月	5号館竣工
平成 3 年 4 月	第4代校長に前豊橋技術科学大学教授 工学博士・沖津昭慶任命
//	外国人留学生受入れ開始
平成 4 年 3 月	男子寮（D 寮）を女子寮に改修
平成 4 年 4 月	学校週5日制実施
平成 4 年 10 月	韓国東洋工業専門大学と学術交流協定の調印
平成 5 年 4 月	土木工学科を環境都市工学科に改組
平成 5 年 10 月	創立 30 周年記念式典挙行
平成 6 年 6 月	寄宿舎 D 寮竣工
平成 6 年 9 月	グラウンド改修
平成 7 年 4 月	専攻科設置
平成 8 年 3 月	寄宿舎（B・C寮、女子寮）改修
平成 9 年 3 月	専攻科棟竣工
平成 10 年 4 月	第5代校長に前豊橋技術科学大学教授 工学博士・小嶋正光任命
平成 11 年 8 月	寄宿舎（管理棟、食堂、浴室）改修
//	太陽光発電設備設置
平成 12 年 4 月	電気工学科を電気情報工学科に改組
平成 12 年 10 月	3 号館一部改修（教室の狭隘解消工事）
平成 12 年 12 月	マルチメディア教育棟竣工
平成 13 年 3 月	電気情報工学科棟改修、増築
//	1 号館一部改修、増築、2 号館、教室棟、5 号館一部改修（教室の狭隘解消工事）
平成 13 年 8 月	寮管理棟、第 2 女子寮、男子浴室、学寮食堂改修
平成 15 年 1 月	校名看板設置（D寮屋上）



鵜沼校舎（昭和38年1月）



1号館（昭和39年3月竣工）



けやしき植樹（昭和58年10月）

平成 15 年 4 月	創立 40 周年記念式典挙行
平成 16 年 4 月	独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する岐阜工業高等専門学校となる
平成 16 年 5 月	環境システムデザイン工学が JABEE 技術者教育プログラムとして認定
平成 18 年 4 月	第6代校長に前豊橋技術科学大学教授 工学博士・榊原建樹任命
平成 19 年 3 月	平成18年度大学評価・学位授与機構による機関別認証評価認定
平成 21 年 4 月	環境システムデザイン工学が JABEE 技術者教育プログラムとして継続認定
平成 22 年 3 月	地域技術開発・教育センター改修
平成 23 年 2 月	情報科学芸術大学院大学（IAMAS）と学術交流協定の調印
平成 23 年 4 月	第7代校長に前豊橋技術科学大学教授・環境生命工学系長 工学博士・北田敏廣任命
平成 23 年 7 月	豊橋技術科学大学・東海地区5高専（岐阜、沼津、豊田、鈴鹿、鳥羽商船）間で学術交流協定の調印
平成 23 年 11 月	インドネシア・バンドン工科大学と学術交流協定の調印
平成 24 年 7 月	マレーシア工科大学と学術交流協定の調印
平成 24 年 9 月	ドイツ・ハノーバー大学数学・物理学部と学術交流協定の調印
平成 25 年 4 月	アメリカ合衆国・アイオワ大学と学術交流協定の調印
平成 25 年 9 月	機械工学科棟改修
平成 25 年 11 月	創立 50 周年記念式典挙行
平成 26 年 3 月	平成25年度大学評価・学位授与機構による機関別認証評価認定
平成 26 年 6 月	ウズベキスタン・トリノ工科大学タシケント校と学術交流協定の調印
平成 27 年 4 月	環境システムデザイン工学が JABEE 技術者教育プログラムとして継続認定
平成 27 年 9 月	ウズベキスタン・タシケント工科大学と学術交流協定の調印
平成 28 年 1 月	ウズベキスタン・タシケント自動車道路建設大学と学術交流協定の調印
//	1 号館エレベーター新設
平成 28 年 2 月	フランス・リール第一大学附属工業短期大学と学術交流協定の調印
//	環境都市工学科棟改修
平成 28 年 3 月	第 1 体育館等改修
平成 28 年 4 月	専攻科（電子システム工学専攻、建設工学専攻）を専攻科（先端融合開発専攻）に改組
//	第 8 代校長に前名古屋大学工学研究科社会基盤工学専攻教授 工学博士・伊藤義人任命
平成 29 年 1 月	ベトナム・ハノイ建設大学と学術交流協定の調印
//	ベトナム・中部土木大学と学術交流協定の調印
平成 29 年 2 月	5 号館エレベーター新設
平成 29 年 8 月	中国・江蘇城郷建設職業学院と学術交流協定の調印
平成 30 年 2 月	マレーシア・トン フセイン オン大学と学術交流協定の調印
令和 元 年 7 月	3 号館建築学科棟改修
令和 2 年 3 月	図書館センター改修
令和 2 年 10 月	タイ・ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校と学術交流協定調印
令和 3 年 3 月	1 号館（事務棟）、女子寮、テニスコート改修
令和 3 年 4 月	第 9 代校長に前豊橋技術科学大学教授 工学博士・伊津野真一任命
令和 3 年 9 月	国際寮竣工
令和 4 年 3 月	一般教室棟及び学科事務室棟改修工事竣工
令和 4 年 8 月	数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）に認定（文部科学省）
令和 5 年 1 月	永岡文部科学大臣視察
//	シンガポール・リパブリックポリテクニクと学術交流協定の調印
令和 5 年 3 月	4 号館、福利施設（伊吹）改修工事竣工
令和 5 年 6 月	ウズベキスタン・キミョ国際大学タシケント校と学術交流協定の調印
令和 5 年 8 月	ベトナム・電力大学と学術交流協定の調印
//	ベトナム・フエ工業短期大学と学術交流協定の調印
令和 5 年 10 月	創立 60 周年記念式典挙行
令和 5 年 11 月	創立 60 周年記念事業高専の森「植樹式」挙行
令和 6 年 12 月	イギリス・カーディフアンドバール大学と学術交流協定の調印
//	ベトナム・郵政通信技術大学と学術交流協定の調印
令和 7 年 3 月	5 号館電子制御工学科棟改修工事竣工
令和 7 年 4 月	第 10 代校長に前釧路工業高等専門学校校長 工学博士・大塚友彦任命

創立 40 周年記念式典挙行	
独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する岐阜工業高等専門学校となる	
環境システムデザイン工学が JABEE 技術者教育プログラムとして認定	
第6代校長に前豊橋技術科学大学教授 工学博士・榊原建樹任命	
平成18年度大学評価・学位授与機構による機関別認証評価認定	
環境システムデザイン工学が JABEE 技術者教育プログラムとして継続認定	
地域技術開発・教育センター改修	
情報科学芸術大学院大学（IAMAS）と学術交流協定の調印	
第7代校長に前豊橋技術科学大学教授・環境生命工学系長 工学博士・北田敏廣任命	
豊橋技術科学大学・東海地区5高専（岐阜、沼津、豊田、鈴鹿、鳥羽商船）間で学術交流協定の調印	
インドネシア・バンドン工科大学と学術交流協定の調印	
マレーシア工科大学と学術交流協定の調印	
ドイツ・ハノーバー大学数学・物理学部と学術交流協定の調印	
アメリカ合衆国・アイオワ大学と学術交流協定の調印	
機械工学科棟改修	
創立 50 周年記念式典挙行	
平成25年度大学評価・学位授与機構による機関別認証評価認定	
ウズベキスタン・トリノ工科大学タシケント校と学術交流協定の調印	
環境システムデザイン工学が JABEE 技術者教育プログラムとして継続認定	
ウズベキスタン・タシケント工科大学と学術交流協定の調印	
ウズベキスタン・タシケント自動車道路建設大学と学術交流協定の調印	
1 号館エレベーター新設	
フランス・リール第一大学附属工業短期大学と学術交流協定の調印	
環境都市工学科棟改修	
第 1 体育館等改修	
専攻科（電子システム工学専攻、建設工学専攻）を専攻科（先端融合開発専攻）に改組	
第 8 代校長に前名古屋大学工学研究科社会基盤工学専攻教授 工学博士・伊藤義人任命	
ベトナム・ハノイ建設大学と学術交流協定の調印	
ベトナム・中部土木大学と学術交流協定の調印	
5 号館エレベーター新設	
中国・江蘇城郷建設職業学院と学術交流協定の調印	
マレーシア・トン フセイン オン大学と学術交流協定の調印	
3 号館建築学科棟改修	
図書館センター改修	
タイ・ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校と学術交流協定調印	
1 号館（事務棟）、女子寮、テニスコート改修	
第 9 代校長に前豊橋技術科学大学教授 工学博士・伊津野真一任命	
国際寮竣工	
一般教室棟及び学科事務室棟改修工事竣工	
数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）に認定（文部科学省）	
永岡文部科学大臣視察	
シンガポール・リパブリックポリテクニクと学術交流協定の調印	
4 号館、福利施設（伊吹）改修工事竣工	
ウズベキスタン・キミョ国際大学タシケント校と学術交流協定の調印	
ベトナム・電力大学と学術交流協定の調印	
ベトナム・フエ工業短期大学と学術交流協定の調印	
創立 60 周年記念式典挙行	
創立 60 周年記念事業高専の森「植樹式」挙行	
イギリス・カーディフアンドバール大学と学術交流協定の調印	
ベトナム・郵政通信技術大学と学術交流協定の調印	
5 号館電子制御工学科棟改修工事竣工	
第 10 代校長に前釧路工業高等専門学校校長 工学博士・大塚友彦任命	



創立50周年記念碑（平成25年4月除幕）



50周年史
(平成25年)



60周年史（令和5年）

本校の概要

1. 概要

岐阜工業高等専門学校は、昭和38年4月に、機械工学科、電気工学科及び土木工学科の3学科を専門学科とする国立の5年制高等教育機関として設置されました。昭和43年には建築学科が、昭和63年には電子制御工学科が増設され5つの専門学科を持った学校として整備・拡充されました。さらに、社会の進歩や変革に見合った教育課程の改革を行うために、平成5年には土木工学科が環境都市工学科に改組され、平成12年には電気工学科が電気情報工学科に改組されました。また、高専教育の一層の高度化を目指して、平成7年には学士の取得が可能な修業年限2年の専攻科が設置されました。平成16年から全国の国立高専が独立行政法人へ移行されたことに伴い、より一層の「個性化、活性化、高度化」を目標に掲げ、今日に至っています。

本校の教育は、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為な人材を育成する」ことにあります。学生が社会で実践的技術者として活躍できるように、高等学校3年間と大学の前半2年間を合わせた修業年限5年間において、高等学校と同様な一般科目ならびに大学と同様な専門科目の中から、本校独自に精選した教育課程を編成し、効率的に5年間一貫教育を実施していることが特徴です。

専門学科は、それぞれ学科の特色を活かした教育課程を用意しており、社会の推移や要請に応じて教育課程自体も更新・改善され、学科ごとに学生受入れ方針が示されています。本校で学修する専門科目の内容は大学レベルと同等であり、「ものづくり」教育を重視した様々な実験や実習を通じて、学生は学んだ理論を広く応用し展開する実践的な能力を修得することが可能となります。また、修業年限5年の本科の教育課程を修了後、本校の専攻科において、一段と深く専門分野に関する学芸を学修し、あわせて、学術研究活動を通じてその成果を社会に還元する道が開かれています。

本校の教育課程の特徴は、中学校卒業後の早い段階から、実験・実習・実技などの体験的な学習を重視したきめ細やかな少人数教育を行うことにより、産業界の期待に応えることが可能な実践的技術者を継続的に輩出していることです。また近年では、より高度な知識や技術を修得するために、本科卒業生の約半数の学生が専攻科への進学や大学編入学への進路を選択しています。

本校の教育方針

1. 教育理念

- (1) 科学技術に夢を託し、人類愛と郷土愛に目覚めること。
- (2) 国際性豊かで世界に羽ばたく気概を持つこと。
- (3) 情報化社会の最前線で活動すること。

2. 養成すべき人材像

科学技術に夢を託し、人類愛に目覚め国際性豊かで情報化社会の最前線で活躍する技術者

3. 教育の基本方針（3つのポリシー）

【ディプロマ・ポリシー】(卒業・修了認定の基本方針)

本校では、下記の人材の養成を目的としています。所定の年限在籍し、以下に示す能力・技術の素養を身につけて、各学科の規定する単位数を修得し、卒業研究審査に合格した学生に対して卒業を認定し「準学士（工学）」の称号を授与します。また、専攻科が規定する単位を修得したものに修了を認定します。

《卒業生、修了生が修得すべき能力・技術の素養》

(A) 主体的学習能力

- ① 技術者として必要となる自己管理能力、責任感、チームワーク力、体力等を持つことができる
- ② 未来指向型のキャリアデザイン力を身につけることができる

(B) 創造的思考力

- ① 新たな課題や実務上の問題点を理解して、自発的に課題を解決する計画を立案することができる
- ② 基礎知識等を活用しながら、その計画を継続して実行することができる

(C) 国際的対応力

- ① 人文・社会科学の知識を活用し、グローバルな視点で社会問題や環境問題を捉えることができる
- ② 日本語および一つ以上の外国語を用いたコミュニケーション能力を身につけることができる

(D) 専門的能力

- ① 数学や自然科学を基礎とした専門分野の基礎知識・能力を身につけることができる
- ② 実験・実習で得られるデータの測定、処理および考察に関する実践的技術を身につけることができる

(E) 情報通信技術

- ① 情報リテラシーを身につけることができる
- ② 情報機器等を使いこなし、専門分野で必要とされる情報を収集・活用・発信することができる

《各学科および専攻科における養成すべき人材像》

機械工学科

機械工学科は、機械技術者として活躍するための機械工学の (D) **基礎学力**を有するのみならず、(A) **主体性・多様性・協働性**等の人間力、思考力・判断力・表現力等の (B) **創造的な思考力**、外国語等のグローバルな (C) **コミュニケーション能力**、及び社会情勢の急激な変化に柔軟に対処できる (E) **情報通信技術能力**を備えた人材を育成します。

電気情報工学科

電気情報工学科は、理工系基礎学力と電気工学・電子工学・情報工学系の学力・技術をバランス良く身に付けます。このような高度な (D) (E) **専門技術と知識**の修得と共に、(C) **人文・社会系の素養**も身に付け、(A) **自ら学び、考え、課題を解決できる**、(B) **創造性・探究心**豊かで、社会の要求に応えることを目指す科学技術人材を育成します。

電子制御工学科

電子制御工学科は、電子制御技術の根幹である電気・電子、制御、機械関連分野の (D) **専門知識**をしっかりと身につけ、技術者として新しい技術分野に挑戦できる (A) **主体的学習能力**を備え、電子制御システムを操作・構築できる (B) **創造的思考力**を持ち、グローバル化する社会の中で海外の文化を理解し外国語等を使ったコミュニケーション能力を備えた (C) **国際的対応力**を持ち、電子制御分野における専門的知識・技術能力を備え、コンピュータなどの情報機器を自由に駆使できる (E) **情報通信技術**に長けた人材を育成します。

環境都市工学科

環境都市工学科は、人類が自然災害から国土を守り快適で安全な生活を支えるための「社会基盤の整備」と、自然と共生・調和し環境負荷の低減を考慮した「循環型の都市づくり」の創造に関する基本的な (D) **専門的知識・考え方**を理解し、(E) **情報通信技術**を駆使しながら (C) **国際的な視野**で人類の持続的発展を支える社会基盤整備を (A) **主体性・多様性・協働性**を持って積極的に推進できる (B) **創造的思考力**を身に付けた実践的技術者を育成します。

建築学科

建築学科は、人間が社会生活を営む空間を構築するために建築・都市空間の構成技法、環境調整及び構造安全性に関する (D) **専門的技術**と (E) **情報通信技術**、加えて (A) **主体性・多様性・協働性**をもってそれらを総合化する能力、および思考力・判断力・表現力を備えた (C) **国際的コミュニケーション能力**と (B) **創造的思考力**を有する人材を育成します。

専攻科先端融合開発専攻

先端融合開発専攻は、(D) **専門分野**をさらに深めることに取り組むとともに、これと異なる分野の技術システムを理解して、機械工学、電気電子工学、情報工学、土木工学、建築学などを融合した問題解決手段により、(A) **主体性・多様性・協働性**などの人間力・思考力・表現力などの (B) **創造的な思考力**、柔軟な (C) **国際的対応力**および (E) **情報通信技術**をもって、世界の持続的な発展に貢献しうる能力を有する人材を育成します。

【カリキュラム・ポリシー】（教育課程編成および実施の基本方針）

本校では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、以下に示す科目群を用意しています。

《全学科・専攻科共通》

（A）主体的学習能力

主体的な学習態度を養うため、低学年において各専門学科の動機付け科目、入門的な科目を用意しています。また自己管理能力、責任感、チームワーク力、リーダーシップなどの素養を身につけることを目的とした各種実験・実習・演習系科目を各学年に用意しています。さらに、生涯にわたり継続的に活動できる心身ともに健康な技術者を目指して保健体育、キャリア教育支援プログラムに関わる科目群や学生の主体的参加型の活動を用意しています。

（A-1）主体性の涵養 （A-2）保健体育及び芸術 （A-3）キャリアデザイン能力

（B）創造的思考力

各学科、専攻科において創造的な工学実験、実習、演習および卒業研究、特別研究により、課題を発見する思考力や計画から実行までを含めた課題解決能力を養うための科目群を用意しています。また専攻科では、異分野対応力を養うことを目的とした横断型の実習科目を用意しています。

（B-1）創成型活動 （B-2）エンジニアリングデザイン能力

（C）国際的対応力

グローバルな技術者として必要となる一般的な教養科目群（人文・社会科学）を低学年から用意しています。また、国際的に通用するコミュニケーションツールとしての英語をすべての学年で用意し、高学年では第二外国語を用意しています。

（C-1）一般教養 （C-2）コミュニケーション能力

（D）専門的能力

＜準学士課程＞

すべての専門分野で必要となる数学、自然科学、工学基礎に関する科目群を主には低学年で用意し、学年が進行するに従って専門工学、工学実験・実習、技術者倫理などの科目群をくさび型に配置することで、専門的能力や実践的技術を効率的に習得する科目群を用意しています。

（D-1）理学 （D-2）基礎工学 （D-3）専門分野 （D-4）技術者倫理

＜専攻科課程＞

準学士課程で身につけた各専門分野（機械工学分野、電気電子工学分野、情報工学分野、土木工学分野、建築学分野）の専門的能力をさらに深める科目群を用意しています。また、異なる分野を融合した問題解決手段により、新しいものづくりを開発するために必要な能力を身につける科目群を用意しています。

（D-1）理学 （D-2）先端融合開発学域

（D-3）専門分野（機械工学分野、電気電子工学分野、情報工学分野、土木工学分野、建築学分野）

（D-4）技術者倫理

（E）情報通信技術

情報リテラシー科目を低学年で配置するとともに、情報機器等を用いる科目や情報処理能力の向上を目的とした実習・演習系科目を用意しています。

（E-1）情報リテラシー （E-2）情報機器活用能力

以下、各学科で用意された各科目群の特徴を説明します。

一般科目

▶一般科目の主体的学習能力を涵養するための科目群

心身の健康と組織力の素養を育成するため、第1学年から第4学年まで体育実技を設定しています。また、実践的思考力を養うための社会科系科目を設定しています。

▶一般科目の国際的対応力を涵養するための科目群

グローバル人材に必要な語学と人文系教養の基礎を身につけるため、語学科目および社会科系科目を開設しています。

▶一般科目の専門的能力を涵養するための科目群

工学の基礎となる数学、物理、化学だけでなく、生物・地学を含んだ総合的な理科系科目も設定しています。

機械工学科

▶機械工学科の主体的学習能力を涵養するための科目群

第1学年にものづくりに関わる導入教育科目を設け、第2学年以上の各学年に、機械設計製図系科目、機械加工系科目、及び機械工学実験系科目の実習・演習系の科目を用意しています。

▶機械工学科の創造的思考力を身につけるための科目群

課題解決能力を涵養するために、第4学年に実習系科目、第5学年に卒業研究を用意しています。

▶機械工学科の国際的対応力を身につけるための科目群

外国語科目のほか、専門分野の英語を扱う科目を準備しています。

▶機械工学科の専門的能力に関する科目群

機械工学の4力学（材料力学・熱力学・流体力学・機械力学）に関わる基礎科目のほか、境界領域に関わる講義系科目と実験系科目、演習系科目を用意しています。

▶機械工学科の情報通信技術を身につけるための科目群

低学年では情報リテラシーの基礎科目を設け、学年進行に従い情報処理、あるいは数値計算法等の高度な科目群を準備しています。

電気情報工学科

▶電気情報工学科の主体的学習能力を涵養するための科目群

主体的学習で課題を解決する能力を涵養するため、高学年に実習系科目、さらに第5学年に卒業研究を用意しています。

▶電気情報工学科の創造的思考力を身につけるための科目群

第1学年で思考力育成に向けた基礎教育を行い、第2学年以上の各学年に、電気情報工学に関する実験を通して創造的思考力を養います。

▶電気情報工学科の国際的対応力を身につけるための科目群

電気情報工学科において一般科目として行われる外国語に加えて、専門領域の英語やコミュニケーション能力を育成する科目を用意しています。

▶電気情報工学科の専門的能力に関する科目群

電気情報工学に関わる電気電子系、情報工学系の基礎および応用内容の科目を講義形式、演習形式、および実験・実習形式で実施することにより専門的能力を高める工夫をしています。

▶電気情報工学科の情報通信技術を身につけるための科目群

低学年次にプログラミングなどを含んだ情報通信技術に関する基礎科目を設け、高学年次により高度なプログラミング科目と情報通信技術に必要な不可欠な専門科目群を準備しています。

電子制御工学科

▶電子制御工学科の主体的学習能力を涵養するための科目群

第1学年に電子制御分野に関わる導入教育科目及び実習科目を設け、第2学年から第4学年に、電子制御系の製図科目、実験・実習科目を用意しています。

▶電子制御工学科の創造的思考力を身につけるための科目群

課題解決能力を涵養するために、第4学年に実験・実習系科目、第5学年に卒業研究を用意しています。

▶電子制御工学科の国際的対応力を身につけるための科目群

外国語科目を準備するとともに、電子制御工学の専門分野で英語表現を扱う専門科目群及び卒業研究などを準備しています。

▶電子制御工学科の専門的能力に関する科目群

電気電子工学系に関わる専門科目、機械工学系に関わる専門科目、情報・制御系に関わる専門科目及び、実験系科目を用意しています。

▶電子制御工学科の情報通信技術を身につけるための科目群

低学年では情報リテラシー等を学ぶ情報処理科目を設け、学年進行に従い情報処理言語やデータ処理を学ぶ情報処理系・情報通信系の科目を準備しています。

環境都市工学科

▶環境都市工学科の主体的学習能力を涵養するための科目群

第1学年に導入教育科目を設け、第2学年以上の各学年に、自身のキャリアプランニングを育成させる実習・演習系科目を用意しています。

▶環境都市工学科の創造的思考力を身につけるための科目群

課題解決能力を育成するための科目を主に高学年に用意しています。

▶環境都市工学科の国際的対応力を涵養するための科目群

外国語科目のほか、文化・社会問題を捉えてコミュニケーションできる力を育成する科目を主に高学年に用意しています。

▶環境都市工学科の専門的能力に関する科目群

5系の主要分野（構造系・地盤系・水理系・環境系・計画系）を座学と実験・実習を並行して学修する科目を用意しています。また、第5学年には分野横断型の科目、学術的な科目および実務的な科目を選択できるように用意しています。

▶環境都市工学科の情報通信技術を身につけるための科目群

低学年で情報リテラシーを身につけるとともに情報機器を使用する基礎科目を設け、高学年に情報通信技術を適用する専門科目を用意しています。

建築学科

▶建築学科の主体的学習能力を涵養するための科目群

第1学年に建築学を包括する導入教育科目を設け、第1学年～第2学年において基礎的技術の修得となる演習系科目を配置し、第3学年以降に実験・演習系の科目を用意しています。

▶建築学科の創造的思考力を身につけるための科目群

課題解決能力を育成するための科目を主に高学年に用意しています。

▶建築学科の国際的対応力を身につけるための科目群

外国語科目および英語を扱う専門基礎分野の科目のほか、グローバルな視点で建築や都市を理解するための科目を用意しています。

▶建築学科の専門的能力に関する科目群

建築学科の3系（計画・構造・環境）に関わる基礎科目に加え、講義系科目と並行してより実践的な学修を行う実験演習系科目を用意しています。また、第5学年では実務的な科目やより高度な専門技術に関わる科目を用意しています。

▶建築学科の情報通信技術を身につけるための科目群

情報技術の基礎・リテラシーから利活用までを学習する科目を用意しています。

専攻科先端融合開発専攻

▶先端融合開発専攻の主体的学習能力を涵養するための科目群

1年次から実践的な実験実習科目を設け、2年次には社会問題解決能力を育む実験実習科目と教育課程の総まとめとなる特別研究を用意しています。

▶先端融合開発専攻の創造的思考力を身につけるための科目群

創造的思考力を涵養するために実践的な実験実習科目、および社会問題解決能力を育む実験実習科目と教育課程の総まとめとなる特別研究を用意しています。

▶先端融合開発専攻の国際的対応力を身につけるための科目群

国際的対応力を涵養するために、一般教養を育む社会倫理科目とコミュニケーション能力を育む英語科目を用意しています。

▶先端融合開発専攻の専門的能力に関する科目群

機械工学、電気電子工学、情報工学、土木工学、および建築学を基礎とし、各分野の融合を含めた科目群に加え、科学・数学等の理学系科目と技術者倫理科目を用意しています。

▶先端融合開発専攻の情報通信技術を身につけるための科目群

情報通信技術を涵養するために、情報機器の活用能力を育む情報工学系の講義科目と実験実習科目を用意しています。

《成績評価及び単位認定基準》

これらの科目における単位取得の認定は、各科目のシラバスに基づき、以下の方法で行います。

●成績評価は、主には定期試験、提出物及び平素の学習状況等を総合して実施し、評価基準は総得点率の60%以上を合格とします。

●履修した授業科目の単位修得は、以下の成績評価6以上で認定します。

総得点率(%)	10段階表示	標点区分
80以上	10～8	優
70～80未満	7	良
60～70未満	6	可
60未満	5～2	不可

【アドミッション・ポリシー】（入学者選抜の基本方針）

本校は、高等学校や大学とは異なる高等専門学校本来の魅力を一層高めるという使命に燃え、日本の産業構造の国際化ならびに高度化に伴う急速な変化に柔軟に対応できる学力や創造力に加えて、環境に配慮した人間性豊かで倫理観を備えた技術者を育成することを目的としています。このような教育理念のもと、本校における受入方針は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような能力と意欲を持った学生を入学させるためのものです。具体的には、次のような人を求めています。

《本科入学者に求める人材像》

- 基礎学力が身についている人
- コミュニケーション能力の基礎が身についており、グローバルな視点で活躍したい人
- 主体的に勉学や課外活動に取り組んでいる人
- 科学的探求心が旺盛で、ものづくりを通して人や地域社会の発展に貢献したい人

《4年次編入学者に求める人材像》

- 基礎学力の修得に努めており、さらに専門の知識を身につけたい人
- 好奇心が旺盛で、常に知識を獲得し、能力の開発を目指して努力する人
- 学んだ知識を活用し社会に貢献したい人

本校では、入学者の選抜に関しては、以下の方針に従って選抜を行います。

《本科入学者選抜の基本方針》

【推薦選抜】

推薦による選抜では、在籍中学校等の校長より提出された調査書から基礎学力が身についているかを評価し、本校が実施する面接の評価項目から主体的に学習等に取り組む態度、及び、思考力・判断力・表現力などを総合的に判定します。

【学力選抜】

学力による選抜では、本校の教育を受けるのに必要な基礎学力を有した者を選抜するため、学力検査の成績及び在籍（又は出身）中学校等の校長から提出された調査書に基づいて行います。学力検査は筆記試験で、国語、数学、英語、理科の4教科です。また調査書は主に主体的に学習に取り組む態度、及び思考力・判断力・表現力を身に付けているかを評価します。

【帰国子女特別選抜】

帰国子女特別選抜では、面接検査（口頭試問【理科、英語、数学】を含む）及び調査書等で総合的に判定します。

《4年次編入学者選抜の基本方針》

編入学者の選抜では、学力検査の成績、出身（在籍）高等学校長から提出された調査書及び面接に基づき行います。

本校専攻科では、高等専門学校の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、その研究を指導することを目的としています。このような教育理念のもと、本校における受入方針は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような能力と意欲を持った学生を入学させるためのものです。具体的には、次のような人を求めています。

《専攻科入学者に求める人材像》

- 国際的視野を持ち、先端技術の融合により世界の持続的成長に貢献するものづくりの技術的能力の獲得を目指している人
- 産業界の要請に対して、創造的手法により革新的な価値創生を実現できる融合的な開発的能力の習得を目指している人
- 高専本科などにおいて、基盤となる専門科目を習得したのちに、さらに融合分野の学修や研究に強い意欲を持つ人

本校専攻科では、入学者の選抜に関しては、以下の方針に従って選抜を行います。

《専攻科入学者選抜の基本方針》

専攻科入学者の選抜では、専攻科での勉学に支障のない学力、目的意識及び学習意欲を十分に備えた人物を選抜します。選抜の方法としては「推薦による選抜」、「学力検査による選抜（前期・後期）」及び「社会人特別選抜」の三つの方法で行います。

【推薦選抜】

推薦による選抜は、在学する高等専門学校長または所属学科長から提出された推薦書、調査書から基礎学力が身についているかを評価し、自己申告書及び面接検査の結果から主体的に学習等に取り組む態度、及び、思考力・判断力・表現力などを総合して判定します。

【学力選抜】

学力による選抜は、出身（在学）学校長の証明する調査書及び学力検査の結果から基礎学力が身についているかを評価し、自己申告書から主体的に学習等に取り組む態度、及び、思考力・判断力・表現力などを総合して判定します。

【社会人特別選抜】

社会人特別選抜は、出身学校の校長または学長から提出された調査書から基礎学力が身についているかを評価し、在職する企業等の長が作成した推薦書、自己申告書及び面接検査の結果から主体的に学習等に取り組む態度、及び、思考力・判断力・表現力などを総合して判定します。

4. 教育目標

準学士課程

- (1) 広い視野を持ち、自立心と向上心に富み、教養豊かな技術者の育成
- (2) 基礎学力を身につけ、創造力、応用力、実践力を備えた技術者の育成
- (3) 国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成
- (4) 工学技術についての倫理観を有した技術者の育成
- (5) 教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成

専攻科課程

- (1) 得意とする専門分野をさらに深めるとともに、異分野を理解し複数の分野にまたがった思考力を備えた技術者の育成
- (2) 社会の要求するテーマを創造的に調査・企画・設計・計画し、継続的に解析・実行・改善できる問題解決能力を備えた技術者の育成
- (3) 的確な日本語と国際的に通用するコミュニケーション能力を備えた技術者の育成
- (4) 先端情報技術を駆使して専門分野のプログラムを構築する能力を備えた技術者の育成
- (5) 多様でグローバルな視点の倫理的判断ができ、技術者の社会的責任を理解して地域貢献できる技術者の育成

5. 各学科・専攻科で養成すべき学力及び資質・能力等の具体的な学習・教育到達目標

各学科・専攻科で養成すべき学力及び資質・能力等の具体的な学習・教育到達目標を教育の基本方針（ディプロマ・ポリシー）：(A) 主体的学習能力、(B) 創造的思考力、(C) 国際的対応力、(D) 専門的能力、(E) 情報通信技術に関連して、その内容を定めています。また、本校では学生に5つの標語を示しています。教育の基本方針（ディプロマ・ポリシー）との対応を以下の表に示します。

教育の基本方針（ディプロマ・ポリシー）と教育目標との対応

(準学士課程) ◎は特に関与、○は関与						
教育目標	教育の基本方針 (ディプロマ・ポリシー)	(A) 主体的 学習能力	(B) 創造的 思考力	(C) 国際的 対応力	(D) 専門的 能力	(E) 情報通信 技術
(1) 広い視野を持ち、自立心と向上心に富み、教養豊かな技術者の育成		◎	○			
(2) 基礎学力を身につけ、創造力、応用力、実践力を備えた技術者の育成			◎		◎	
(3) 国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成				◎		◎
(4) 工学技術についての倫理観を有した技術者の育成		◎				
(5) 教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成		○	◎		◎	
標 語		広い教養	ものづくり	国際化	深い専門	IT

(専攻科課程) ◎は特に関与、○は関与						
教育目標	教育の基本方針 (ディプロマ・ポリシー)	(A) 主体的 学習能力	(B) 創造的 思考力	(C) 国際的 対応力	(D) 専門的 能力	(E) 情報通信 技術
(1) 得意とする専門分野をさらに深めるとともに、異分野を理解し複数の分野にまたがった思考力を備えた技術者の育成					◎	
(2) 社会の要求するテーマを創造的に調査・企画・設計・計画し、継続的に解析・実行・改善できる問題解決能力を備えた技術者の育成			◎			
(3) 的確な日本語と国際的に通用するコミュニケーション能力を備えた技術者の育成				◎		
(4) 先端情報技術を駆使して専門分野のプログラムを構築する能力を備えた技術者の育成						◎
(5) 多様でグローバルな視点の倫理的判断ができ、技術者の社会的責任を理解して地域貢献できる技術者の育成		◎				
標 語		広い教養	ものづくり	国際化	深い専門	IT

研究の基本方針

- 1. 教員の専門的研究を推進するとともに、その成果を広く社会に発信する。
- 2. テクノセンター等を活用した産学官連携により、地域産業・社会の持続的発展に貢献する共同研究プロジェクトを推進する。
- 3. 競争的外部研究資金の獲得に向けたガイダンス、情報提供等の支援を実施して、研究活動の一層の活性化を図る。
- 4. 特許取得を奨励・支援するため、知的財産権に関するガイダンス等を実施する。

地域貢献の基本方針

- 1. 岐阜高専地域連携協定会事業等に積極的に取り組み、地域における産学官連携を推進するとともに、その成果を広く社会に発信する。
- 2. 地域のものづくり教育拠点や次世代の人材育成機関としての役割を果たすため、公開講座、出前授業、図書館開放等を充実する。
- 3. 小中学生の理数系学習や情報教育等の支援活動を推進する。
- 4. 地域の自治体等の各種委員として地域に貢献する。

■地域貢献活動（公開講座）の様子



はじめての七宝焼き



マイコンちゃれんじ
ーマイコンを使った電子工作とプログラミング講座ー



■ 一般科目の紹介

21世紀を担う技術者は、各工学分野の高度な知識と実践的技術を身につけていなければなりません。また、人文科学・自然科学の二分野にまたがる豊かな教養と幅広い視野を有し、善意と良識とを兼ね備えた、世界の人々から信頼される人間であることが肝要です。

このような人材を育成するために、一般科目では、普通高校の内容と大学の教養課程との重複を避け、併せて専門教育の基礎に重点をおいた独自のカリキュラムを採用しています。さらに、学生が国際化・情報化時代に対処して行けるように、最新の教育機器を利用した分かりやすい授業を実施するとともに、人格の陶冶にも力を注いでいます。

■ 一般科目（人文）で養成する人材像

今の時代が求めるものは、ひとつには専門的な知識と技術に精通した高度な専門性であり、ひとつには国際事情と人類の歴史についての該博な知識、そして確固とした倫理観に基づく高い見識である。またそれを獲得し伝達するためにコミュニケーションしようとする意欲と能力である。技術、情報、知識を操るのは人間であり、人間的基盤の健全な育成のため教養的かつ実践的な教育に一般科目（人文）は取り組んでいる。

以上に基づき、一般科目（人文）では、以下に示す「養成すべき人材像」を掲げている。

養成すべき人材像

- 人類の歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重して社会問題を考えることができる広い視野と倫理観を持った人材
- 日本語で十分に受容・発信できるだけでなく、外国語でも異文化に偏見を持つことなく受容・発信でき、獲得した広い視野、高い見識、倫理観を実社会で活かすことができる人材

■ 一般科目（自然）で養成する人材像

人間に役立つ工学を活用し発展させるには、工学の基礎となる物理・化学分野などの自然法則を理解し、科学的な考え方を養うことが大切である。数学は、自然法則を適切に表現するために必要不可欠な手段であるから、その手法や考え方を十分に学習しなければならない。

現代社会で科学技術の成果を利用しながら人間らしい健康な生活を送るためには、保健の知識を修得する必要がある、また、体育の心身に与える効用を体験的に理解しなければならない。

以上に基づき、一般科目（自然）では、以下に示す「養成すべき人材像」を掲げている。

養成すべき人材像

- 数学・自然科学の基礎的な知識を持ち、専門分野にそれを応用する能力のある人材
- 心身の健康についての知識を持ち、健康的な生活を送ることができる人材

■ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成および実施の基本方針）

▶ 一般科目の主体的学習能力を涵養するための科目群

心身の健康と組織力の素養を育成するため、第1学年から第4学年まで体育実技を設定しています。また、実践的思考力を養うための社会科系科目を設定しています。

▶ 一般科目の国際的対応力を涵養するための科目群

グローバル人材に必要な語学と人文系教養の基礎を身につけるため、語学科目および社会科系科目を開設しています。

▶ 一般科目の専門的能力を涵養するための科目群

工学の基礎となる数学、物理、化学だけでなく、生物・地学を含んだ総合的な理科系科目も設定しています。

■ 一般科目のカリキュラム（平成30年度以降入学生）

1年		2年		3年		4年		5年	
国語A	2	総合国語	2	総合国語	2	総合国語	1	英語A	2
国語B	2	倫理	2	政治・経済	2	現代社会と法	2	第二外国語	2
世界史	2	日本史	2	数学AI	2	体育	2	(中国語)	
地理	2	数学AI	2	数学AII	2	英語A	2		
数学AI	2	数学AII	2	体育	2	第二外国語	2		
数学AII	2	数学B	2	英語A	2	(ドイツ語)			
数学B	2	物理BI	2	英語C	1				
物理A	1	物理BII	2						
化学A	2	化学B	2						
総合理科	1	体育	2						
保健	2	英語A	2						
体育	2	英語B	1						
美術	1	英語C	2						
音楽	1								
英語A	2								
英語B	2								
英語C	2								



電子黒板を使った倫理の授業

■ 教 員

職 名	氏 名		学 位	主な担当科目
教授	◎(人文・学科長)	久保田圭司	教育学修士	公民
		中島 泉	理学修士	数学
	◎(自然・学科長)	山本 浩貴		保健・体育
		麻草 淳		保健・体育
		中島 泰貴	博士(文学)	国語
		岡崎 貴宣	博士(理学)	数学
	(※1)	野々村咲子	文学修士	英語
	(※2)	菅 菜穂美	博士(理学)	物理
准教授		安里 陽子	博士(現代アジア研究)	英語
		北川 真也	博士(理学)	数学
		堅田 陽子	博士(文学)	国語
		八木真太郎	博士(理学)	数学
		渡邊 慎	博士(理学)	物理
講師		岡本 直美	博士(現代アジア研究)	英語
		樋口 千紘	博士(文学)	国語
		小泉 嘉輝	修士(人間・環境学)	英語
		勝野 太介	修士(教育学)	保健・体育
		島袋 出	博士(理工学)	化学
		佐川 侑司	博士(理学)	数学
助教		北谷 昌大	博士(法学)	公民・歴史

※1 学生相談室長 ※2 寮務主事



eラーニングによる英語の授業



数学の授業風景



体育の授業風景

機械工学科

<https://www.gifu-nct.ac.jp/mecha/>



■ 機械工学科の紹介

機械工学科は機械設計技術者と機械加工技術者（生産技術）等の実践的かつ創造力に富む技術者を養成する学科です。教育課程はこれを達成するために構成されており、3年～5年の高学年では大学の学部で使用する教科書を用いて専門的な講義を行っています。また実践力を養成するために、機械設計製図、機械加工、あるいは工学実験等の実技系科目の教育も充実しています。

近年の航空機・自動車の運輸機器技術、IT技術、あるいはロボット技術の発展にも適合するように、教育課程については、概ね5年毎に大きな改訂を行い、適宜、産業界や工業界の要望に適した人材を輩出できるように配慮されています。教員陣は機械工学を核とし、その境界領域も含む広い学際分野で、それぞれ細分化された専門分野を持ち、質の高い教育活動を展開するのみならず、研究者として学会における研究成果の発表や地域貢献を行うなど多様な活躍をしています。

卒業生の進路は多様であり、企業の高い評価に基づき、クラスの約半数は企業に総合職の技術者として就職します。一方で残りの約半数は、本校の専攻科に入学したり、あるいは大学の第3年次に編入学したりして、機械技術者としての専門性の深度化や人間力の幅をいっそう広げる道を選んでいます。

■ 機械工学科で養成する人材像及び学習・教育目標

機械工学は「ものづくり」技術の根幹を成す学際領域である。「ものづくり」は機械製品の立案計画段階である（1）機械設計と、これに続いた製品を具現化する段階である（2）機械製作の2段階により構成される。

機械設計は、機械技術者の叡智と経験とを集約・統合することによって、はじめて実現される創造的な営みの発露である。機械技術者をめざす学生は、機械設計技術の基盤である数学、物理、及び情報技術等を修得することが不可欠である。さらに、これらの科学技術を基礎として、機械設計技術に直結した「材料力学」、「流体力学」、「熱力学」、及び「機械力学」を中心とした力学関連教科目を修得しなければならない。

機械製作は、機械設計技術者により考案された製品のイメージを、実際の製品として具現化する崇高な創造的プロセスである。機械技術者は①経済性、②品質、③工期、あるいは④環境保全・安全についての所定の制約条件下で、最適な加工条件を見出し実現する重責を担っている。機械技術者をめざす学生は、生産機械操作についての実践的能力のみならず、生産技術に深い関わりのある「機械工作法」、「計測工学」、「制御工学」、及び「生産工学」等の教科目を修得しなければならない。

一方、「ものづくり」を効率的に遂行するために、機械技術者は、道具としてのIT技術を修得することが必要である。また、国内外の「ものづくりチーム」の一員として活躍するためには、「コミュニケーション能力」、及び「倫理観に基づく社交性」が求められ、機械技術者をめざす学生にはこれらの能力を滋養することが期待されている。

以上に基づき、機械工学科では、以下に示す「養成すべき人材像」及び「学習・教育目標」を掲げている。

養成すべき人材像

- 機械工学科は、機械技術者として活躍するための機械工学の基礎学力を有するのみならず、主体性・多様性・協働性等の人間力、思考力・判断力・表現力等の創造的な思考力、外国語などのグローバルなコミュニケーション能力、及び社会情勢の急激な変化に柔軟に対処できる情報通信技術能力を備えた人材を育成します。

■ 学習・教育目標

(A) 倫理を身につける。

(A-1) 人類の歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重して社会問題を捉える倫理観の基礎を身につける。

(A-2) 機械技術が地球環境に及ぼす影響等に責任を自覚する機械技術者としての倫理観の基礎を身につける。

(A-3) 心身ともに健康な技術者たるために、健康管理能力および体力を身につけるとともに、芸術の鑑賞力、協調性、創造力、想像力などを培い、心のゆとりを育て、生活を豊かにする。

(B) デザイン能力の基礎を身につける。

(B-1) 機械技術上の問題点や新たな課題を理解し、豊かな発想で自発的に問題を解決するための計画を立てる能力の基礎を身につける。

(B-2) 機械工学の基礎知識を活用し、着実に計画を継続して解析・実行し、得られた成果を論文にまとめる総合的なデザイン能力の基礎を身につける。

(C) コミュニケーション能力を身につける。

(C-1) 日本語で記述、発表、討論する能力の基礎を身につける。

(C-2) 国際的に通用するコミュニケーションの基礎能力を身につける。

(D) 機械工学とその基礎となる学際分野、及びその周辺の境界学際分野の知識・能力の基礎を身につける。

(D-1) 数学・自然科学の基礎知識およびそれらを用いた問題解決能力を身につける。

(D-2) 基礎工学（設計・システム、情報・論理、材料、力学）の基礎知識と能力を身につける。

(D-3) 機械工学のうち、その周辺学際分野にも共通な分野（環境、創生、エネルギー、計測・制御、安全等）の知識と能力を身につける。

(D-4) 機械設計技術者としての基礎知識を身につけ、この深度化と体系化を図るため次の4つの能力を修得する。

(1) 強度が保証され安全に利用することができる機械を設計するための材料の力学に関する能力

(2) 空気あるいは液体などの流体の力学的挙動を把握し、これを機械設計に適用する能力

(3) 機械の動力、あるいは利用効率に関わる物質の熱的な挙動を力学的に評価し、これを機械設計に適用する能力

(4) 機械の運動、あるいは振動についての力学的挙動を理解し、これを機械設計に適用する能力

(D-5) 機械工学とは異なる技術分野にも興味を持ち、これらと機械工学の知識とを複合する能力の基礎を養う。

(E) 情報技術を身につける。

情報機器を使いこなし、情報処理システムのプランを構築する能力の基礎を身につける。

■ 機械工学科のカリキュラム

1年		2年		3年		4年		5年	
〈必修科目〉		〈必修科目〉		〈必修科目〉		〈必修科目〉		〈必修科目〉	
ものづくり入門	3	機械工作法Ⅰ	1	応用物理Ⅰ	2	応用数学Ⅰ	1	生産工学	1
(小計)	3	機械工作法Ⅱ	1	工業力学	2	応用数学Ⅱ	1	技術者倫理	1
		情報リテラシー	1	機構学	2	応用数学Ⅲ	1	卒業研究	8
		機械設計製図Ⅰ	2	材料力学Ⅰ	2	応用物理Ⅱ	1	(小計)	10
		機械工学実習Ⅰ	3	材料学Ⅰ	1	機械力学Ⅰ	1	〈選択科目〉	
		(小計)	8	計測工学	1	機械力学Ⅱ	1	応用物理Ⅲ	2
				機械設計法Ⅰ	1	材料力学Ⅱ	1	流体力学Ⅱ	2
				情報処理Ⅰ	1	材料力学Ⅲ	1	熱力学Ⅱ	2
				数値計算法	1	流体力学Ⅰ	2	エネルギー工学	2
				機械設計製図Ⅱ	2	熱力学Ⅰ	2	伝熱工学	2
				機械工学実験Ⅰ	2	材料学Ⅱ	1	材料学Ⅲ	2
				機械工学実習Ⅱ	3	機械工作法Ⅲ	1	制御工学Ⅱ	2
				(小計)	20	制御工学Ⅰ	1	電気・電子工学概論	2
						機械設計法Ⅱ	1	工学解析	2
						情報処理Ⅱ	1	連続体力学入門	2
						機械工学実験Ⅱ	2	システム工学	2
						創生工学実習	3	メカトロニクス	2
						機械工学演習	1	ロボット工学	2
						機械工学基礎研究	2	機械工学特論	2
						(小計)	25	AI実践	2
								(選択科目開設単位数)	30
								(選択科目修得単位数)	20以上



機械工学実習の様子

■ 教 員

職 名	氏 名	学 位	主な担当科目
教 授	石丸 和博	博士(工学)	熱力学 伝熱工学
	学科長 片峯 英次	博士(工学)	機械力学 工学解析 機械設計法
	山田 実	博士(工学)	制御工学 ロボット工学
	宮藤 義孝	博士(工学)	機械工作法 機械工学実習 熱力学
	山本 高久	博士(工学)	熱力学 流体力学
准教授	熊田 圭悟	博士(工学)	機械設計製図 ものづくり入門
	島本公美子	博士(工学)	材料学
講 師	岸田 真幸	博士(工学)	材料力学 情報処理 情報リテラシー
助 教	今井 伸哉	修士(工学)	流体力学



金属材料の疲労試験



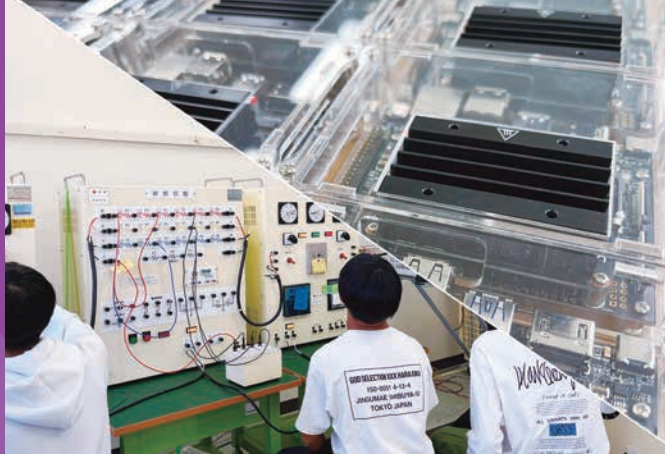
工学解析の授業



ものづくり入門の授業

電気情報工学科

<https://www.gifu-nct.ac.jp/elec/>



■ 電気情報工学科の紹介

電気情報工学科は、電気をエネルギーや信号として利用する電気電子工学と、AI・IoT・通信・データサイエンスなどの情報工学を幅広く学べる学科です。技術革新が急速に進む現代社会において、次世代のスマート社会やカーボンニュートラルの実現に貢献できるエンジニアの育成を目指しています。

低学年では、電気・電子・情報・プログラミングなどの基礎をじっくり学び、幅広い視野と確かな土台を身につけます。授業に加えて、最先端の機器を使用した実験・計測、ワンボードマイコンやシングルボードコンピュータを活用した実践的なプログラミング演習を重視しています。また、学科内コンテストや発表の機会を多く設けることによって、プレゼンテーション力や課題発見・解決力、チームでの協働力を養成します。

高学年では、電気電子工学コースと情報工学コースがあり、社会が求める分野を学べる柔軟なカリキュラムを構成しています。また、本校と協定を結んだ海外の大学で実習を行う選択科目「海外研修」を開設しており、休学せず単位を取得することができます。

■ 電気情報工学科で養成する人材像及び学習・教育目標

電気情報工学科では、近年の急速な電気・電子・情報技術の進展や今後の各種技術革新にも対応でき、国際性や倫理観を有する技術者を養成するため、情報化社会の基盤をなす電気・電子・情報の各分野についての基礎的な技術と知識を身に付け、高度細分化した専門技術や知識の自立的な修得を可能とする教育を目指している。本学科ではこの目標を効率的に達成するため、学生の資質に応じた教育を可能とする、コース別カリキュラムを四年次より導入している。電気電子工学コースと情報工学コースに分かれた教育カリキュラムにより、専門的技術と知識の効率的な修得を可能とし、電気・電子・情報の各分野における基礎知識と技術をバランス良く身につけると共に、社会の要求に応えることのできる高度な専門技術と知識を修得した技術者の養成を目指している。

以上に基づき、電気情報工学科では以下に示す「ディプロマ・ポリシー」を掲げている。

【ディプロマ・ポリシー】（卒業・修了認定の基本方針）

電気情報工学科は、理工系基礎学力と電気工学・電子工学・情報工学系の学力・技術をバランス良く身につけます。このような高度な(D)(E)専門技術と知識の修得と共に、(C)人文・社会系の要素も身に付け、(A)自ら学び、考え、課題を解決できる、(B)創造性・探求心豊かで、社会の要求に応えることを目指す科学技術人材を育成します。

【カリキュラム・ポリシー】（教育課程編成および実施の基本方針）

▶電気情報工学科の主体的学習能力を涵養するための科目群

主体的学習で課題を解決する能力を涵養するため、高学年に実習系科目、さらに第5学年に卒業研究を用意しています。

▶電気情報工学科の創造的思考力を身につけるための科目群

第1学年で思考力育成に向けた基礎教育を行い、第2学年以上の各学年に、電気情報工学に関する実験を通して創造的思考力を養います。

▶電気情報工学科の国際的対応力を身につけるための科目群

電気情報工学科において一般科目として行われる外国語に加えて、専門領域の英語やコミュニケーション能力を育成する科目を用意しています。

▶電気情報工学科の専門的能力に関する科目群

電気情報工学に関わる電気電子系、情報工学系の基礎および応用内容の科目を講義形式、演習形式、および実験・実習形式で実施することにより専門的能力を高める工夫をしています。

▶電気情報工学科の情報通信技術を身につけるための科目群

低学年次にプログラミングなどを含んだ情報通信技術に関する基礎科目を設け、高学年次に、より高度なプログラミング科目と情報通信技術に必要な不可欠な専門科目群を準備しています。

■ 電気情報工学科のカリキュラム

1年	3年	4年	5年		
〈必修科目〉	〈必修科目〉	〈必修科目〉	〈必修科目〉	〈選択科目〉	
電気電子設計製図 (小計)	3 3	応用数学 A 応用物理I 電気磁気学I 電気回路I 電気情報工学基礎演習	1 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2
2年		電子回路 計算機アーキテクチャ プログラミング 技術英語 電気情報工学実験 (小計)	2 2 2 1 4 20	2 2 2 1 4 2	2 2 2 2 2 2
電気回路I 論理学 プログラミング 電気情報工学実験 (小計)	2 1 2 3 8	電子回路 計算機アーキテクチャ プログラミング 技術英語 電気情報工学実験 (小計)	2 2 2 1 4 20	2 2 2 1 4 2	2 2 2 2 2 2
		電気磁気学I 電子工学I 電気情報工学演習I 電気情報工学演習II 情報ネットワーク スイッチング回路理論 数値解析 信号処理 電気情報工学実験 工学基礎研究I 工学基礎研究II (小計)	2 2 2 1 2 1 22	2 2 2 1 2 1 22	2 2 2 2 2 2 22
		電気電子工学コースのみ			
		電気電子工学実験 電気磁気学II 電気回路II 電気機器 (小計)	2 1 1 2 6	2 1 1 2 6	2 2 3 4 5 6 2
		情報工学コースのみ			
		情報工学実験 情報理論 データ構造とアルゴリズム 言語理論 情報数学 (小計)	2 1 1 1 1 6	2 1 1 1 1 6	2 2 3 4 5 6 2
					(選択科目開設単位数) 55 (選択科目修得単位数) 16以上



学生作品テスラコイル
(数十万ボルトの発生が可能な発電装置)



東京大学総長賞はじめ多くの活躍をした武井氏
(電気OB・37期生)による学生向け講演会



大学院での飛び級期間を米国MITでの客員研究員として
活躍した後藤氏(電気OB・39期生)による学生向け講演会

電気情報工学科では卒業生の活躍を現役学生に可視化していきます。

■ 教 員

職 名	氏 名	学 位	主な担当科目
教 授	出口 利憲	博士(工学)	データ構造とアルゴリズム 言語理論 プログラミング
	富田 睦雄	博士(工学)	電気機器 発変電工学 送配電工学 自動制御
	◎(学科長) 羽淵 仁恵	博士(工学)	電子回路 電気磁気学I・II
	(情報処理センター長) 山田 博文	博士(工学)	プログラミング 数値解析
	飯田 民夫	博士(工学)	電子工学I・II 電気回路I
准教授	三宅 晶子	博士(理学)	応用数学B 応用物理II
	(国際交流室長) 田 島 孝 治	博士(工学)	計算機アーキテクチャ ソフトウェア工学 信号処理
	白木 英二	博士(工学)	電気回路I 通信工学 電気電子工学実験
	柴田 欣秀	博士(工学)	応用数学A 電気情報工学実験
講 師	堀内 咲江	博士(工学)	情報ネットワーク OSとデータベース 電気情報工学実験
助 教	クマール ラフル	博士(工学)	電気材料 電気情報工学実験 技術英語
嘱託教授	早川 知道	博士(学術)	電気情報工学演習 技術者倫理
	安田 真	博士(工学)	情報数学 情報理論

電子制御工学科

<https://www.gifu-nct.ac.jp/elcon/>



電子制御工学科の紹介

現代社会においては、機械的な単純作業だけでなく判断を必要とする知的作業の分野においても、人間の代わりとなって作動するシステムを開発することが求められています。人間は目や耳などの感覚器官を通して状況を把握し、頭脳で考え手足を使って様々な動作を行います。これを装置で行う場合にも、センシング（目・耳）、認識と判断（頭）、制御（手足）といった同様なプロセスが必要となります。こうしたプロセスを全てにわたって、人を介することなく自律的に行うのが智能化したシステムです。知能化システムは、工場の生産設備をはじめ、自動車、航空機、電子機器、インテリジェントビル、通信システム、医療機器、バイオテクノロジーから家電製品に至るまであらゆる分野で実現されようとしています。本電子制御工学科では、このような知的動作をするシステムを開発するための基礎技術を総合的に取り扱います。本科では、電気・電子・機械系の基礎知識に加えて、計測・制御・情報・コンピュータ関連の専門科目やロボット工学、システム制御工学などの最先端の理論についても学びます。また、実験・実習も重視しており、電子制御工学実験やロボット制御実験・情報処理演習なども徹底して行っています。

電子制御工学科で養成する人材像及び学習・教育到達目標

電子制御工学科では、コンピュータを始め幅広い基礎技術を身につけると同時に、電子制御・情報制御技術によるシステムの知能化を実現し、人間の知的動作を代行するような創造的なシステム開発を行える技術者の育成を目指しています。以上の理念に基づき、電子制御工学科では、以下に示す「養成すべき人材像」及び「学習・教育到達目標」を掲げています。

養成すべき人材像

電子制御工学科は、電子制御技術の根幹である電気・電子、制御、機械関連分野の（D）専門知識をしっかりと身につけ、技術者として新しい技術分野に挑戦できる（A）主体的学習能力を備え、電子制御システムを操作・構築できる（B）創造的思考力を持ち、グローバル化する社会の中で海外の文化を理解し外国語等を使ったコミュニケーション能力を備えた（C）国際的対応力を持ち、電子制御分野における専門的知識・技術能力を備え、コンピュータなどの情報機器を自由に駆使できる（E）情報通信技術に長けた人材を育成します。

学習・教育到達目標

(A) 主体的学習能力 ① 技術者として必要とされる自己管理能力、責任感、協調性、チームワーク力、体力等を身につけることができる。 ② 電子制御工学を応用できる産業・学際分野において柔軟に対応できる未来志向型のキャリアデザイン能力を身につけることができる。	
(B) 創造的思考力 ① 電気・電子、情報、制御、機械に関係する工学分野を学びながら、技術上の問題点や新たな課題を見出し、柔軟な発想で問題を解決するためのアイデアや計画を立案することができる。 ② 電気・電子、情報、制御、機械に関する基礎知識を活用し、その計画を継続して実行することができる。	
(C) 国際的対応力 ① グローバルな技術者として活躍するために、国際社会のもつ歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重して社会問題や環境問題を正しく捉える能力を身につけることができる。 ② 日本語を十分理解し、さらに英語などの外国語を理解しグローバルな世界でコミュニケーションできる能力を身につけることができる。	
(D) 電子制御工学分野の専門的能力 ① 数学・自然科学の基礎知識およびそれらを用いて問題解析できる能力を身につける。 ② 電気・電子、制御、情報、機械工学を基礎とした電子制御工学分野に関する基礎知識・能力を身につける。 ③ 電子制御工学分野に関する実験・実習で得られるデータの測定、処理および考察に関する実践的技術を身につけることができる。	
(E) 情報通信技術 ① 情報機器を使って、情報検索、データ処理、データ表現、プレゼンテーション等の情報リテラシー技術を身につける。 ② 情報機器を使って専門分野で必要とされるプログラミングやデータ解析などを学び、情報処理システムを用いた企画・構築・解析・表現などができる基礎知識と実践能力を身につける。	

電子制御工学科のカリキュラム

1年		2年		3年		4年		5年	
〈必修科目〉		〈必修科目〉		〈必修科目〉		〈必修科目〉		〈必修科目〉	
電子制御工学概論	1	情報処理 1	2	応用数学 1	1	応用数学 2	2	卒業研究	12
電子制御工学実習 1	2	電気回路 1	1	応用物理 1	2	応用数学 3	2	(小計)	12
(小計)	3	電子制御基礎演習 1	1	情報処理 2	2	応用数学 4	2	〈選択科目〉	
		電子制御設計製図	2	電磁気学 1	2	応用物理 2	2	応用物理 3	2
		電子制御工学実習 2	2	電気回路 2	2	電磁気学 2	2	情報処理 3	2
		(小計)	8	電子回路	2	計測工学	2	情報応用工学	2
				電子制御基礎演習 2	1	制御工学 1	2	電気応用工学	2
				機械運動学 1	2	制御工学 2	2	電子応用工学	2
				材料力学 1	2	機械運動学 2	2	制御工学 3	2
				電子制御工学実験 1	4	電子制御工学実験 2	4	材料力学 2	2
				(小計)	20	電子制御総合演習	2	ロボット工学	2
						工学基礎研究	4	機械応用工学	2
						技術者倫理	1	AI 実践	2
						(小計)	29	(選択科目開設単位数)	20
								(選択科目修得単位数)	14 以上



実験風景

教 員

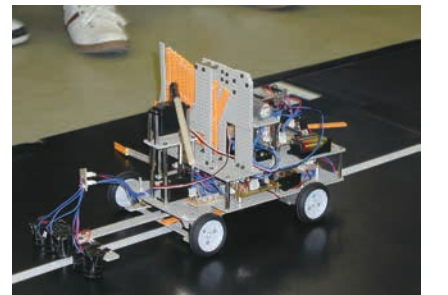
職 名	氏 名		学 位	主な担当科目
教 授	◎(学科長)	北川 秀夫	博士(工学)	ロボット工学 メカトロニクス特論
		福永 哲也	博士(工学)	電気磁気学 計算機アーキテクチャ
	(研究主事)	遠藤 登	博士(工学)	システム制御 情報処理
	(テクノセンター長)	小林 義光	博士(工学)	機械運動学 電子制御工学実験
准教授		河野 託也	博士(工学)	応用物理 電気磁気学
		栗山 嘉文	博士(工学)	電子制御工学実習 材料の力学
		青木 佳史	博士(工学)	電気回路 電動力デバイス
講 師		松永信之介	博士(工学)	電子制御工学実験 電子回路
助 教		松田 基	修士(工学)	電子制御工学実験 デジタル計測制御
嘱託教授		森口 博文	博士(理学)	応用数学 応用数学特論



3次元加工機



画像処理を利用したロボット制御



ランサーロボット

環境都市工学科

https://www.gifu-nct.ac.jp/civil/



環境都市工学科の紹介

近年、わが国は多くの災害にみまわれています。なかでも平成23年に発生した東北地方太平洋沖地震は観測史上最大のマグニチュードを記録するとともに、地震に伴って発生した津波もあいまって甚大な被害をもたらし、わが国がまだまだ自然災害に対して脆弱な面を持っていることを思い知らしました。寸断された道路や鉄道により人々の生活基盤は奪われ、一刻も早い復旧が望まれる中、環境都市工学科を卒業した技術者達が住民の期待に応えて寝食を忘れ道路や鉄道の復旧にあたりました。発災から10年以上が経過しますが、復旧そして街の復興に向けた卒業生の活躍は続きます。

環境都市工学科では、自然災害から国土を守る「防災」、快適で安全な生活や産業を支える「社会基盤整備」に関わる技術を創造・提案できる能力を身につけます。さらに、自然と共生・調和し環境負荷の低減を考慮した「循環型の都市づくり」についても取り組みます。

卒業後に就職する場合、大きく分けて、防災や社会基盤整備に関する計画を立案する職種（国家・地方公務員、エネルギー・運輸・情報関係の民間企業）、防災や社会基盤に関する施設を設計・施工・維持管理する職種（設計会社、建設会社）、のいずれかに就きます。いずれも、自分の技術が住民の安全で快適な生活に貢献していることを実感できる仕事です。公共心が強く、住民の役に立つことに喜びを感じられる人にとって、工学の中では最も適した分野といえましょう。

環境都市工学科で養成する人材像及び学習・教育到達目標

環境都市工学は、安全かつ快適な社会活動を支え、環境にやさしい持続可能な社会を創るための学問であり、その主たる対象は「社会基盤」です。社会基盤とは、道路や鉄道、港や空港、上下水道、電気やガスなど、我々の日常生活や社会活動と密接にかかわる施設です。一方、社会基盤を強靱化し、かしこく使うことによって、巨大地震の発生や気象災害の頻発など自然災害から国土と人命を守ることにも繋がります。社会基盤は、我々にとって必要不可欠な存在であり、社会がどのように変化したとしても、その重要性は不変的です。

わが国の世界に冠たる社会基盤整備技術は、日本はもとより、世界の発展に大きく貢献していますが、今後は、環境負荷の低減が大きな課題であり、この課題に対しても世界をリードする役割が求められています。人類が持続的に発展をしていくためには、自然と共生した社会基盤の整備や地域の歴史や文化と調和のとれた創造的な都市づくりを実現できる技術者の養成が望まれています。

以上に基づき、環境都市工学科では、以下に示す「養成すべき人材像」及び「学習・教育到達目標」を掲げています。

養成すべき人材像

- 環境都市工学科は、人類が自然災害から国土を守り快適で安全な生活を支えるための「社会基盤の整備」と、自然と共生・調和し環境に配慮した「循環型の都市づくり」の創造に関する基本的な（D）専門的知識・考え方を理解し、（E）情報通信技術を駆使しながら（C）国際的な視野で人類の持続的発展を支える社会基盤整備を（A）主体性・多様性・協働性を持って積極的に推進できる（B）創造的思考力を身に付けた実践的技術者を育成します。

学習・教育到達目標

(A) 主体的学習能力 ① 技術者として必要となる自己管理能力、責任感、チームワーク力、体力等を持つことができる ② 未来指向型のキャリアデザイン力を身につけることができる
(B) 創造的思考力 ① 新たな課題や実務上の問題点を理解して、自発的に課題を解決する計画を立案することができる ② 基礎知識等を活用しながら、その計画を継続して実行することができる
(C) 国際的対応力 ① 人文・社会科学の知識を活用し、グローバルな視点で社会問題や環境問題を捉えることができる ② 日本語および一つ以上の外国語を用いたコミュニケーション能力を身につけることができる
(D) 専門的能力 ① 数学や自然科学を基礎とした専門分野の基礎知識・能力を身につけることができる ② 実験・実習で得られるデータの測定、処理および考察に関する実践的技術を身につけることができる
(E) 情報通信技術 ① 情報リテラシーを身につけることができる ② 情報機器等を使いこなし、専門分野で必要とされる情報を収集・活用・発信することができる

環境都市工学科のカリキュラム

1年	2年	3年	4年	5年
〈必修科目〉	〈必修科目〉	〈必修科目〉	〈必修科目〉	〈必修科目〉
シビルエンジニアリング入門 1.5	環境都市工学基礎I 2	応用物理 2	応用数学 2	総合実験 2
シビルエンジニアリング入門実習 1.5	環境都市工学基礎II 2	環境都市工学実習I 4	環境都市工学実習II 4	応用水理学 2
(小計) 3	環境都市工学基礎実習I 2	プログラミング 1	設計製図 2	地盤工学 2
	環境都市工学基礎実習II 2	構造力学I 2	構造力学II 2	空間情報工学 1
	(小計) 8	水理学I 2	構造設計学 1	建設マネジメント 1
		地盤力学I 2	水理学II 2	循環型社会形成論 2
		数理計画学I 2	地盤力学II 2	総合演習II 1
		コンクリート工学I 2	数理計画学II 1	卒業研究 10
		測量学 1	都市工学 1	(小計) 21
		測量実習 2	コンクリート工学II 2	〈選択科目〉
		環境工学I (小計) 21	社会基盤工学 1	構造解析学 2
			環境工学II 2	河川水文学 2
			総合演習I (小計) 23	地盤力学III 2
				都市交通計画 2
				実践コンクリート工学 2
				環境生物・生態学 2
				AI 実践 2
				(選択科目開設単位数) 14
				(選択科目修得単位数) 10以上



測量実習

教 員

職 名	氏 名	学 位	主な担当科目
教 授	鈴木 正人	工学博士	計画学 数値計算法
	(学生主事) 水野 和憲	博士(工学)	地盤力学 地盤工学
	角野 晴彦	博士(工学)	環境工学 環境都市工学実習
	◎(学科長) 水野 剛規	博士(工学)	構造力学 設計製図
准教授	廣瀬 康之	工学修士	測量学 環境都市工学基礎実習
	渡邊 尚彦	博士(工学)	応用数学 応用物理
	菊 雅美	博士(工学)	水理学 環境都市工学実習
	川端 光昭	博士(工学)	都市工学 都市交通計画
講 師	北 真人	博士(工学)	水理学 応用水理学
助 教	井向 日向	博士(工学)	コンクリート工学 環境都市工学実習
嘱託教授	吉村 優治	博士(工学)	地盤力学 環境都市工学実習



津波造波実験



高専祭専門展学生作品



環境実験

建築学科

<https://www.gifu-nct.ac.jp/archi/>



■ 建築学科の紹介

建築は、「強」、「用」、「美」の要素から成り立つとされ、すなわち、安全に使えること、快適に使えること、そして美しいことが必要であり、これらのバランスが取れていることが重要とされます。

さらに、近年の地球環境や社会情勢の変化を背景に、建築に求められるものは変化しています。地震などの災害に強いだけでなく、もとの状態に回復できる能力（強靱さ）や防災・減災に向けた都市・地域づくり。地球資源の有効活用や温暖化防止に向けた、リサイクル、省エネルギー・創エネルギー性能や地域の歴史・文化としての建築・景観の継承・活用などです。すなわち、持続可能な住まい・地域社会づくりが強く求められています。

また、IoT時代の到来により、バーチャルリアリティ（VR）を活用した空間表現や、建築の企画・設計から維持管理に至るまで情報技術を活用したBIMへの対応、デジタルインフラの推進も必要になってきています。

建築学科では、建築の専門知識に加えて、知の拠点としての役割を担う地域課題解決と連携した実践的教育や、現代社会において求められている持続可能な地域社会構築に寄与できる技術への探求にも力を入れています。また、関連する技術と教養を総合化する能力を有し、サステナブル社会、そしてカーボンニュートラル社会の実現に向けた問題解決能力を備え、社会に貢献できる建築技術者の育成を目指しています。

■ 建築学科で養成する人材像及び学習・教育到達目標

建築学科は、人間が社会生活を営む空間を構築するために建築・都市空間の構成技法、環境調整及び構造安全性に関する専門的技術と情報通信技術、加えて主体性・多様性・協働性をもってそれらを総合化する能力、および思考力・判断力・表現力を備えた国際的コミュニケーション能力と創造的思考力を有する人材を育成します。

以上に基づき、建築学科では、以下に示す「養成すべき人材像」及び「学習・教育到達目標」を掲げています。

養成すべき人材像

- 人間が社会生活を営む空間を構築するために建築・都市空間の構成技法、環境調整及び構造安全性に関する基礎的技術と教養を有し、それらを総合化できる技術者

■ 学習・教育到達目標

(A) 主体的学習能力 ① 技術者として必要となる自己管理能力、責任感、チームワーク力、体力等を持つことができる ② 未来指向型のキャリアデザイン力を身につけることができる	
(B) 創造的思考力 ① 新たな課題や実務上の問題点を理解して、自発的に課題を解決する計画を立案することができる ② 基礎知識等を活用しながら、その計画を継続して実行することができる	
(C) 国際的対応力 ① 人文・社会科学の知識を活用し、グローバルな視点で社会問題や環境問題を捉えることができる ② 日本語および一つ以上の外国語を用いたコミュニケーション能力を身につけることができる	
(D) 専門的能力 ① 数学や自然科学を基礎とした専門分野の基礎知識・能力を身につけることができる ② 実験・実習で得られるデータの測定、処理および考察に関する実践的技術を身につけることができる	
(E) 情報通信技術 ① 情報リテラシーを身につけることができる ② 情報機器等を使いこなし、専門分野で必要とされる情報を収集・活用・発信することができる	

■ 建築学科のカリキュラム

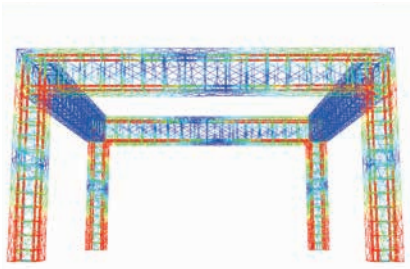
1年		2年		3年		4年		5年	
〈必修科目〉		〈必修科目〉		〈必修科目〉		〈必修科目〉		〈必修科目〉	
建築学通論	1	建築構法Ⅱ	1	応用物理Ⅰ	2	応用数学 A	1	RC構造Ⅱ	2
建築構法Ⅰ	1	空間デザイン基礎	1	デジタルデザインⅠ	1	応用数学 B	1	鉄骨構造Ⅱ	2
建築製図Ⅰ	2	インテリア基礎	1	デジタルデザインⅡ	1	応用物理Ⅱ	1	環境デザイン	2
(小計)	4	建築史Ⅰ	2	情報処理	1	構造力学Ⅱ	2	建築生産	2
		建築製図Ⅱ	2	構造力学Ⅰ	2	建築材料Ⅰ	1	建築法規	2
		(小計)	7	材料力学	1	RC構造Ⅰ	2	測量学	2
				木質構造	1	鉄骨構造Ⅰ	2	防災工学	2
				インテリアデザイン論	1	インテリア設計	2	卒業研究	8
				建築計画Ⅰ	2	建築史Ⅱ	1	(小計)	22
				環境社会学	1	建築計画Ⅱ	2	〈選択科目〉	
				環境工学基礎	1	地域都市計画	1	土質基礎工学	2
				建築設計製図Ⅰ	4	環境工学	2	構造設計	2
				建築環境実験	1	建築設備	2	計画特論	2
				建築構造実験	1	総合演習	1	参加のデザイン	2
				(小計)	20	建築設計製図Ⅱ	4	建築史Ⅲ	2
						建築技術者倫理	1	建築設計製図Ⅲ	2
						(小計)	26	建築設備演習	2
								建築材料Ⅱ	2
								建築計画演習	2
								AI 実践	2
								(選択科目開設単位数)	20
								(選択科目修得単位数)	7 以上



建築学科棟改修現場見学

■ 教 員

職 名	氏 名	学 位	主な担当科目
教 授	犬飼 利嗣	博士(工学)	建築材料 構造力学
	(専攻科長) 鶴田 佳子	博士(工学)	地域都市計画 建築設計製図
	小川 信之	博士(工学)	応用物理 統計力学
	(教務主事) 柴田 良一	博士(工学)	構造実験 構造デザイン
	◎(学科長) 青木 哲	博士(工学)	環境工学 建築設備
准教授	今田太郎	修士(工学)	建築計画 デジタルデザイン
	櫻木 耕史	博士(工学)	建築計画 建築設計製図
	石川あゆみ	博士(工学)	環境工学 建築環境実験
講 師	山本 翔吾	博士(工学)	RC構造 木質構造
助 教	和田 蒔	博士(学術)	建築史 建築設計製図



鉄筋コンクリート造骨組の精密解析



建築環境実験



インテリア設計制作風景

専攻科

<https://www.gifu-nct.ac.jp/senkoka/>



■ 専攻科の紹介

専攻科は、実践的技術者を養成する本科5年間の課程を基礎として、さらに2年間の高度な技術教育を施し、幅広い技術的知識と深い創造的思考力の修得によって、独創的な研究開発や環境保全を視野に入れた企画設計に対応できる技術力を養うこと、ならびに深い教養を身につけ豊かな人間性を養うことを目標にしており、本校に「先端融合開発専攻」の1専攻が置かれています。

● 先端融合開発専攻

先端融合開発専攻は機械工学、電気情報工学、電子制御工学、環境都市工学、建築学を母体とする専攻であり、広くこれらの出身分野での学習を生かしつつ、その境界領域分野の諸問題にも対処できるよう、カリキュラムが構成されています。出身分野と異なる分野の技術を融合した問題解決手段により、ものづくりを展開するための創造的思考力を基盤として、世界の持続的な発展に貢献しう技術者を育成することを目指します。また、豊橋技術科学大学との先端融合テクノロジー連携教育プログラムでは、本校の専攻科と豊橋技術科学大学が強みをもつ教育資源を有効活用しつつ、卒業後、地域等の社会で活躍することができる分野横断型の実践的技術者を育成することを目指します。

■ 専攻科で養成する人材像及び学習・教育目標

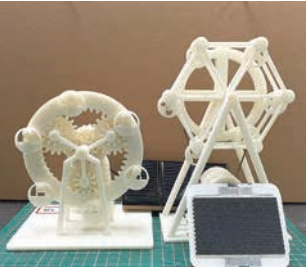
人類が地球上で持続的に発展していくには、生産に関わる各種資源物質の枯渇の防止と、地球上の生態系に影響を及ぼす諸物質の拡散防止などへの配慮が欠かせない。このためこれからの「ものづくり」においては、人間の労働や知的活動を支援し、より快適な社会生活を営むための人工環境を提供する一方で、地球環境の保全や循環型社会の構築に関する配慮が重要となる。専攻科では、社会生活上必要な各種「機能」とそれを実現する「もの（機械、電気・電子機器、建築物、社会基盤）」、「空間（生活、都市、自然）」、「エネルギー」、「知識・情報」およびそれらの「制御・管理」などから構成される「環境システム」を、地球環境の保全を考慮に入れて構想し、設計し、生産する、創造的思考力を育成することを目的としている。

以上に基づき、専攻科では、以下に示す「養成すべき人材像」及び「学習・教育目標」を掲げている。

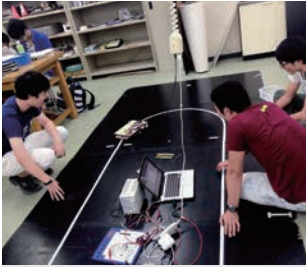
養成すべき人材像

● 先端融合開発専攻

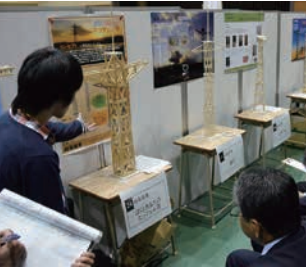
先端融合開発専攻は、(D) 専門分野をさらに深めることに取り組むとともに、これと異なる分野の技術システムを理解して、機械工学、電気電子工学、情報工学、土木工学、建築学などを融合した問題解決手段により、(A) 主体性・多様性・協働性などの人間力・思考力・表現力などの (B) 創造的な思考力、柔軟な (C) 国際的対応力および (E) 情報通信技術をもって、世界の持続的な発展に貢献しうる能力を有する人材を育成します。



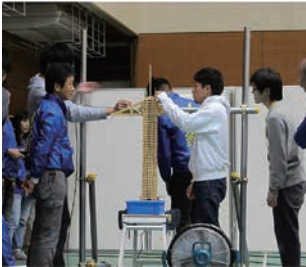
3Dプリンタを使った実習



特別実験



全国高専デザインコンペティション(課題の木製タワーを振動台に設置)



■ 学習・教育到達目標

(A) 主体的学習能力 ① 技術者として必要となる自己管理能力、責任感、チームワーク力、体力等を持つことができる ② 未来志向型のキャリアデザイン力を身につけることができる	
(B) 創造的思考力 ① 新たな課題や実務上の問題点を理解して、自発的に課題を解決する計画を立案することができる ② 基礎知識等を活用しながら、その計画を継続して実行することができる	
(C) 国際的対応力 ① 人文・社会科学の知識を活用し、グローバルな視点で社会問題や環境問題を捉えることができる ② 日本語および一つ以上の外国語を用いたコミュニケーション能力を身につけることができる	
(D) 専門的能力 ① 数学や自然科学を基礎とした専門分野の基礎知識・能力を身につけることができる ② 実験・実習で得られるデータの測定、処理および考察に関する実践的技術を身につけることができる	
(E) 情報通信技術 ① 情報リテラシーを身につけることができる ② 情報機器等を使いこなし、専門分野で必要とされる情報を収集・活用・発信することができる	

■ 専攻科のカリキュラム

先端融合開発専攻教育課程

1年					
一般科目		専門基盤科目		専門展開科目	
〈必修科目〉		〈選択科目〉		〈必修科目〉	
英語特講1	2	生命科学	2	特別実験	4
英語特講2	2	デジタル計測制御	2	特別実習1	2
(必修科目開設単位数計)	4	応用物理学	2	特別研究1	6
〈選択科目〉		国際連携実習1	1	(必修科目開設単位数計)	12
先端数学入門	2	計算力学	2	〈選択科目〉	
(選択科目開設単位数計)	2	量子力学	2	医療福祉工学特論	2
		応用数学特論	2	航空宇宙工学特論	2
		企業経営概論	2	リノベーションデザイン論	2
		科学技術リテラシー教育実習	2	循環型社会特論	2
		(選択科目開設単位数計)	17	環境材料学	2
				拡散現象論	2
				回路網学	2
				デジタルシステム基礎	2
				建設計画学	2
				構造解析学特論	2
				環境調整工学	2
				特別実習 2	1
				(選択科目開設単位数計)	23

2年					
一般科目		専門基盤科目		専門展開科目	
〈必修科目〉		〈必修科目〉		〈必修科目〉	
社会倫理学特論	2	創造工学実習	2	特別研究2	8
(必修科目開設単位数計)	2	(必修科目開設単位数計)	2	(必修科目開設単位数計)	8
〈選択科目〉		〈選択科目〉		〈選択科目〉	
文学	2	物質化学	2	画像情報処理	2
英語演習1	1	国際連携実習2	1	メカトロニクス特論	2
英語演習2	1	ヒューマンインターフェースデザイン	2	空気力学特論	2
(選択科目開設単位数計)	4	統計力学	2	材料分析工学	2
		情報工学	2	新エネルギー特論	2
		プロジェクトマネジメント	2	維持管理工学	2
		先端実験入門	2	環境計画学	2
		(選択科目開設単位数計)	13	電気機器特論	2
				水管理工学	2
				建設振動学特論	2
				都市形成論	2
				(選択科目開設単位数計)	22

学校行事

4月

学年始 前期始
入学式 入寮式
新入生情報研修
第1学年校内研修
健康診断

5月

寮祭
スポーツ大会
クラブ・同好会活動リーダー研修会
ブックハンティング〔図書館〕

6月

前期中間試験

7月

東海地区高等専門学校体育大会
前期期末試験

8月

オープンキャンパス
夏季休業始
全国高等専門学校体育大会

9月

夏季休業終
前期終



寮祭



新入生
情報研修



入学式



寮祭



スポーツ大会



体育大会



ロボコン



研修旅行



高専祭



卒業式

10月

後期始 スポーツ大会
高専祭 全国高専プログラミングコンテスト
ロボコン東海北陸地区大会

11月

研修旅行(第3・第4学年)
東海北陸地区高専英語プレゼンテーションコンテスト
ロボコン全国大会
後期中間試験

12月

冬季休業始
全国高専デザインコンペティション

1月

冬季休業終
全国高専英語プレゼンテーションコンテスト

2月

入学試験
後期期末試験

3月

卒業式 修了式
後期終 学年終

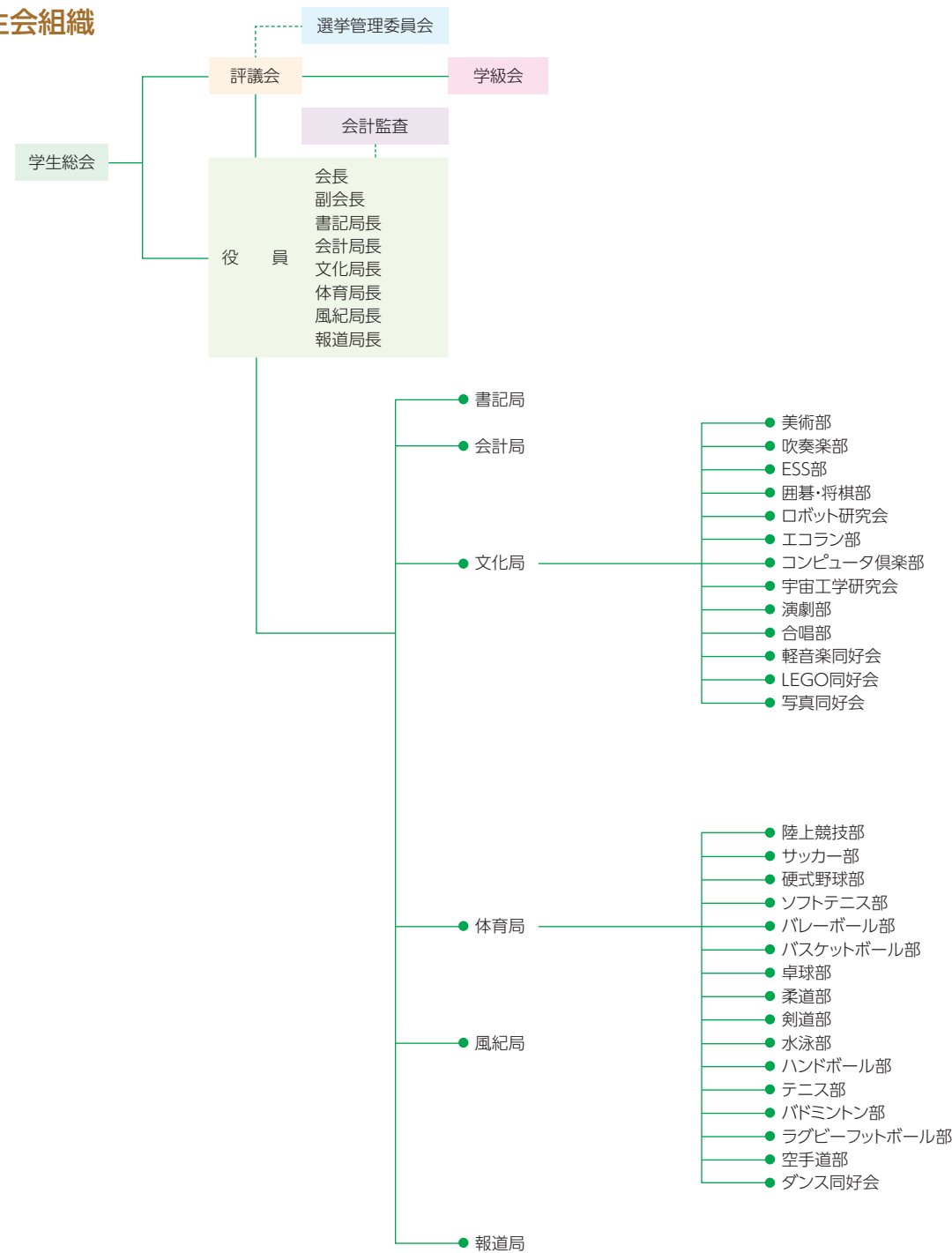


ブック
ハンティング

学生会は、学校の指導のもとに学生の自発的な活動を通じて、その人間形成を助長し、本校の教育目的を達成するため、次のことを目標として活動しています。

- ①学生生活を楽しく、豊かで規律正しいものにし、よい校風をつくる態度を養う。
- ②健全な趣味や豊かな教養を養い、個性の伸長を図る。
- ③心身の健康を助長し、余暇を活用する態度を養う。
- ④学校生活における集団の活動に積極的に参加し、自主性を育てるとともに集団生活において協力し、民主的に行動する態度を養う。
- ⑤学校生活における自発的能力を養うとともに、公民としての資質を向上させる。

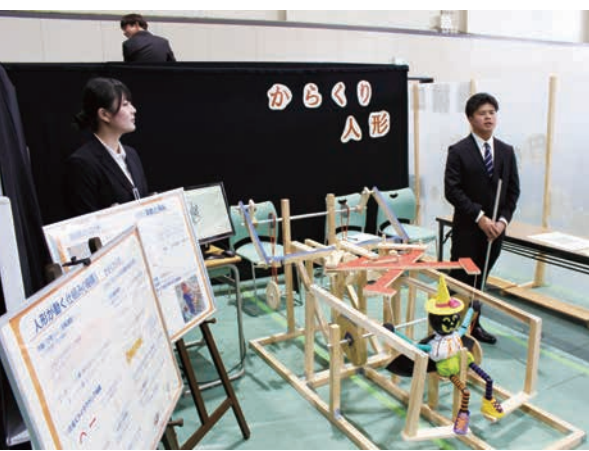
学生会組織



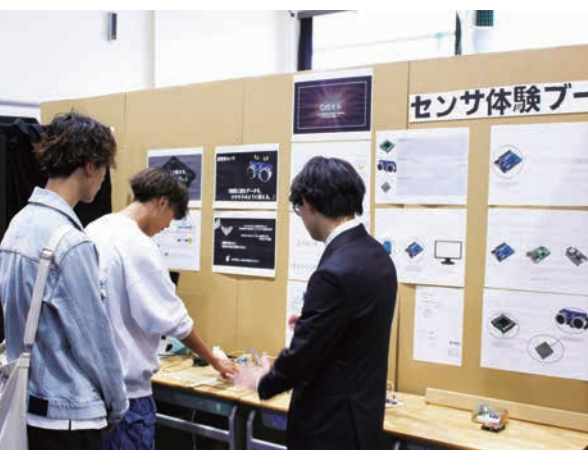
専門展

岐阜高専の高専祭には、毎年4年生が『専門展』を開催します。『専門展』とは、各学科の特色となる作品を展示するものですが、中には体験型の作品があったりしてとても楽しい催しです。

2024年の『専門展』では、機械工学科は「円盤とひも」電気情報工学科は「現実とデータを繋ぐ情報化世界」電子制御工学科は「次元拡張」環境都市工学科は「プロジェクトC 地震に自信を」建築学科は「三匹の子豚—もしも壊されない家が作れたなら—」をテーマとして、各学科が工夫を凝らした作品を展示しました。高専祭での展示ですので、一般のお客様も多数見学に来られます。そこで、ただ作品を展示するだけでなくプレゼンテーションも行い、一般のお客様にも分かり易く、親切に説明し、時には質問に答えることもあります。工学の知識がなくてもとても楽しい作品がご覧になれます。



機械工学科展示



電気情報工学科展示



電子制御工学科展示



環境都市工学科展示



建築学科展示

外国人留学生

本校では、平成3（1991）年から文部省（現文部科学省）を通して、国費・マレーシア政府派遣およびモンゴル政府派遣等留学生を受入れています。これまでに受入れた留学生は、令和7（2025）年度までに計90名です。現在、在籍している留学生は3名、その国籍は、インドネシア、タイ、カンボジアです。



寮祭（BBQ）で在校生と交流する留学生

国別受入留学生の内訳（平成3年度～令和7年度）

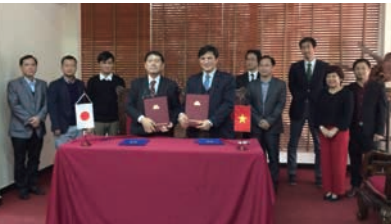
国名	学科	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	環境都市工学科	建築学科	国別合計
平成16年～令和7年	マレーシア	8	2	6	6	1	23
	ラオス	0	5	0	0	1	6
	ベトナム	0	1	0	0	0	1
	スリランカ	0	0	1	0	0	1
	イラン	0	0	1	0	0	1
	モンゴル	4	0	1	2	3	10
	バングラデシュ	0	0	0	0	1	1
	カンボジア	1	1	0	0	4	6
	インドネシア	1	0	1	0	0	2
	タイ	0	1	0	0	1	2
平成3年～15年		8	11	13	1	4	37
学科別合計		22	21	23	9	15	90

包括交流協定の締結校

本校は、学生の海外インターンシップ（短期留学派遣）や教員の学術交流等の“国際化”推進のために、平成23（2011）年度より、海外の大学との包括的な交流協定締結に着手しました。初めに、平成23年11月にインドネシアのバンドン工科大学と協定を結び、その後各国の大学と協定を結びました。令和7年4月現在で、包括交流協定締結校は15大学となっております。

包括交流協定の内訳（令和7年4月現在）

相手国	大学名	締結年月日
インドネシア共和国	バンドン工科大学	2011/11/3
マレーシア	マレーシア工科大学	2012/7/30
アメリカ合衆国	アイオワ大学	2013/4/12
ウズベキスタン共和国	トリノ工科大学タシケント校	2014/6/25
フランス共和国	フランスIUT	2016/2/2
ベトナム社会主義共和国	ハノイ建設大学	2017/1/16
//	ベトナム中部土木大学	2017/1/16
マレーシア	トン フセイン オン大学	2018/2/25
タイ王国	ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校	2020/10/8
シンガポール共和国	リパブリックポリテクニクシンガポール	2023/1/26
ウズベキスタン共和国	キミョ国際大学タシケント校	2023/6/7
ベトナム社会主義共和国	電力大学	2023/8/8
//	フエ工業短期大学	2023/8/10
イギリス	カーディフアンドバール大学	2024/12/5
ベトナム社会主義共和国	ベトナム郵政通信技術大学	2024/12/25



ハノイ建設大学（ベトナム社会主義共和国）
Hanoi Architectural University



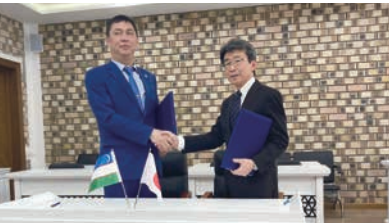
フエ工業短期大学（ベトナム社会主義共和国）
Hue Industrial College



トン フセイン オン大学（マレーシア）
Universiti Tun Hussein Onn Malaysia



シンガポール リパブリックポリテクニク
Singapore Republic Polytechnic



キミョ国際大学タシケント校（ウズベキスタン共和国）
Kimyo International University in Tashkent



カーディフアンドバール大学（イギリス）
CARDIFF AND VALE COLLEGE

海外インターンシップ・短期留学（派遣・受入）

本校の海外インターンシップ（派遣）は、平成15年に（株）TYK（本校地域連携協会の会員）牛込進会長のご意向により同社の現地法人TYK America Inc.（米国ピッツバーグ）で専攻科生を3週間のインターンシップ生として受け入れていただいたのが始まりになります。

また、平成24年度には、包括交流協定を締結した海外大学への短期留学がスタートしました。毎年十数名の専攻科生が夏季休業中に現地大学の教員の指導のもと、研究・実習を行っております。さらに平成26年度からは協定締結校から短期留学生の受入を開始しました。毎年15名前後の短期留学生が本校教員の指導のもと研究・実習を行うとともに、本校学生企画の日本文化体験イベントなどを通じ交流を深めています。これら海外インターンシップ・短期留学（派遣・受入）は日本学生支援機構（JASSO）、若鮎会（本校同窓会）、教育後援会からの支援を得て行われています。

海外インターンシップ派遣・受入の内訳（平成15年度以降）※R2、R3年度については実施なし

協定大学・企業	年度	H15～R元	R2・R3	R4	R5	R6
TYK Ltd.	派遣	32	実施なし	0	0	0
	受入	15		0	0	0
バンドン工科大学	派遣	20		0	0	0
	受入	15		0	0	0
マレーシア工科大学	派遣	18		2	5	0
	受入	20		3	0	0
アイオワ大学	派遣	13		0	0	2
	受入	14		0	0	0
トリノ工科大学タシケント校	派遣	6		0	0	0
	受入	13		0	0	0
フランスIUT（リール大学）	派遣	0		2	5	1
	受入	6		0	2	3
ハノイ建設大学	派遣	0		0	1	4
	受入	7		0	0	0
中部土木大学	派遣	0		0	2	0
	受入	4		0	0	0
トン・フセイン・オン大学	派遣	2		0	0	0
	受入	3		0	0	0
リパブリック・ポリテクニク	派遣	0		2	7	4
	受入	12		4	3	3
ラジャマンガラ工科大学	派遣	—		0	3	2
	受入	—		0	0	0
フエ工業短期大学	派遣	—		0	0	2
	受入	—		0	0	3
その他	派遣	13		0	0	4
	受入	18		0	0	0



カーディフ&バール大学

アイオワ大学



バンドン工科大学の海外インターンシップ
（現地トヨタ工場見学、現地小学校への環境教育活動など）

シアトル未来理工系人材プログラム&台湾研修

岐阜高専では2016年にグローバル高専事業拠点校に選出されて以来、グローバル人材の育成に注力しています。上記の海外インターンシップにつながるプログラムとして、1,2年生は台湾での研修を、3,4年生はシアトルでの研修を企画し、毎年8月、9月にそれぞれ30名程度の学生を海外へ派遣しています。

台湾研修は、2024年度より始まった新しい取り組みで、台湾の半導体産業の中心都市である新竹にあるNYCU（国立陽明交通大学）と連携して行うものです。現地の半導体企業の見学や台湾文化を現地の学生と共に7日間学び、休日や最後の1日は首都台北へ出かけ、故宮博物院や市内を訪問します。

シアトル研修は、「外国に住む・学ぶ・働く」を深く知るために、ホームステイをしながら、ボーイング社やマイクロソフト本社で現役エンジニアと交流したり、ワシントン大学の学生と共に、「現在の技術革新や今後の社会に自分がどのように貢献できるか」をテーマにしたディスカッションを行います。

学生からは、「海外を知るきっかけになった」、「文化・人種の違いや共通点を感じた」、「ホストファミリーと交流するのがすごく楽しかった」、「世界的な企業で働くエンジニアと直接懇談できることができ、改めて自分の目標ができた」などの意見があり、学生にとって自分のキャリアをグローバルな視点で考える貴重なきっかけとなっていることが伺えます。



NYCUの半導体研究室および故宮博物院での活動の様子

本校は、地域貢献活動にも力を注いでいます。その活動拠点がテクノセンターです。本センターには、地域企業・金融機関・地方公共団体などの外部連携を深める技術相談や共同研究などを推進する技術開発部門と、地域社会のニーズを意識した本校学生の実践的教育を取り扱う技術教育部門があります。その設置目的は、本校の教育・研究の発展とともに地域社会における産業技術の振興及び発展に一層貢献することです。また本校の教育・研究に協力することを通して地域の産業並びに文化の振興を図り、地域社会の発展に寄与することを目的として岐阜高専地域連携協力が設置され、人材育成セミナーの支援や協力会企業説明会、見学会などを実施しています。

岐阜工業高等専門学校 地域連携協力会

会員と岐阜高専及び会員相互の交流を深め地域の産業並びに文化の振興を図り地域社会の発展に寄与します

地域産業の人材育成支援

技術者の交流

産業技術の開発支援

岐阜高専の教育研究支援

社会人実践力開発セミナー

テクノシンポジウム講演会ラポーター

研究シーズの提供高専との共同研究技術相談

学生活動の支援教員の研究教育支援

岐阜工業高等専門学校 テクノセンター

共同研究・委託研究・受託試験・技術相談・公開講座・出張講座

http://www.gifu-nct.ac.jp

■お問合せ先 岐阜工業高等専門学校地域連携協力会
〒501-0495 岐阜県本巣市上奥森2236-2
電話 058-320-1213 電子メール kenkyu@gifu-nct.ac.jp

岐阜高専地域連携協会の取組み

関連ウェブサイト	
事業名	ウェブサイト
地域連携協力会	https://www.gifu-nct.ac.jp/cooperative/
産学官連携アドバイザー	https://www.gifu-nct.ac.jp/research/adviser.pdf
機器分析室	https://www.gifu-nct.ac.jp/techno/analysis/top.html
公開講座	https://www.gifu-nct.ac.jp/about/extension_lecture/
岐阜高専教員研究シーズ集	https://www.gifu-nct.ac.jp/research/teachers/



岐阜高専地域連携協力会総会



テクノシンポジウム



中核人材育成塾（社会人実践力開発セミナー）

活動スケジュール

事業名	実施日
地域連携協力会総会 産官学交流懇談会 テクノシンポジウム2026	令和8年2月4日(水)

活動内容

事業名	内容
リテラシー等の活動・報告会・イベント行事	ぎふサイエンスフェスティバル(サイエンスフェア等)
地域連携協力会会員と岐阜高専との研究プロジェクト(R6)	3件
ネットワーク大学コンソーシアム岐阜	科目名 〔後期〕先端数学入門 先端実験入門

活動内容

■ 科学技術（ものづくり）リテラシー教育実習

諸外国と比べて日本は一般市民の科学技術の役割や原理・法則を理解する能力は低いとされています。これは児童の理科・科学離れにより理科・科学に対し苦手意識をもったまま大人になってしまうことが原因の一つでもあるようです。したがって科学技術リテラシー向上には、児童も含めた一般市民に対して科学技術に関心を持ってもらう活動が必要となります。しかしながら一般市民に分かりやすく科学技術を説明するためには、まず説明する者が科学技術リテラシーを身に付けていないといけません。そこで本校では、工学的知識の習得だけでなく、学んだ科学技術を一般市民に分かりやすく説明する実習を通して、学生の科学技術リテラシーの醸成を行っています。この活動では、小中学生または一般市民に対して科学技術に関連した工作教室や実験体験を企画し、実際に学外で実施（発表）します。学外で発表するテーマは科学技術の持つ社会性を一般市民に伝えることができるものとしています。また、学外の発表までに工作に必要なキット、実演のための実験装置、専用のアプリなど、学外の発表のために必要な独自の教材を作ります。

実習テーマの実例として、探査ロボット、ロケット、GPS、小水力発電、地震防災、地域づくりなど私たちの生活に関わりのある科学技術を扱っています。これにより学生自身が科学技術の持つ社会性を学び、それを学外で説明することによって一般市民の科学技術リテラシーが向上していくことを目指しています。

■ 公開講座一覧

令和7年度 岐阜高専公開講座開設一覧

No.	講座の名称	担当学科	開催日	受講対象	受講料
①	黒いラインに沿って動くロボットを作ろう	電子制御工学科	6月21日(土)	中学生	無料
②	きのくにロボットコンテスト小学生部門	機械工学科	①8月3日(日) ②10月12日(日)	小学3～6年生	無料
③	きのくにロボットコンテスト中学生部門	機械工学科	①8月3日(日) ②10月12日(日)	中学生	無料
④	マイコンちゃれんじ ーマイコンを使った電子工作とプログラミング講座ー	電気情報工学科	8月4日(月)	小学5・6年生・中学生	無料
⑤	環境都市工学入門 ーQGISを使って自分だけのハザードマップを作ろうー	環境都市工学科	8月5日(火)	中学生	無料
⑥	はじめての七宝焼き	機械工学科	8月5日(火)	小学校高学年以上	無料
⑦	すまいづくり入門ー設計・インテリアを考えようー	建築学科	8月21日(木)	中学生・中学校教諭	無料
⑧	LEDを使ったミニイルミネーションを作ろう	技術室	9月7日(日)	中学生以上	無料

■ 出前授業

本校では、将来の社会の担い手となる中学生に対し、専門的内容に対して早期に興味や関心をもっていただくことを目的とした「出前授業」を積極的に実施しています。これは、自然科学、人文科学、工学（機械、電気情報、電子制御、環境都市および建築）を専門とする豊富な講師陣が中学校に出向いて専門的な内容をわかりやすく教授するものであり、日常では体験することのできない授業を中学生に提供しています。出前授業の一覧は右の表のとおりです。

関連ウェブサイト

<https://www.gifu-nct.ac.jp/admission/delivery/>



令和6年度に実施した「出前授業」一覧

●動くロボットをブロックで作ろう
●気象予報で伝えられる波と津波の違いを知る
●ロボットの話
●ペルチェ素子で発電してみよう
●ロボットアームの制御と数学の世界
●紙で作る構造物のかたち
●風力発電装置を作ってみよう
●簡単なリニアモーターを作って遊んで学ぼう

図書館

図書館は、教育及び研究に必要な資料を利用者に供することを目的としており、専門書を中心に約10万冊の蔵書があります。館内は明るく開放的な雰囲気が保たれており、開架図書は利用者が活用しやすいように、資格検定、就職進路など、コーナー毎に配置されています。また、ブックハンティングや各種コンクールをはじめ、企画展など四季折々にイベントを開催しています。

平日の開館時間は午前8時30分から午後7時45分まで、土曜日は午前9時から午後3時45分までです。（試験期間中の土・日曜日は開館時間延長開館をしています。）令和元年度、図書館棟の改修が行われ、耐震補強と館内及び周辺が整備され、自習スペースの増設など利用環境が整いました。令和5年3月には図書館前庭に「言ノ葉テラス」がオープンし、館内から直接テラスに出られるようゲートを整備しました。

(1) 開館時間

月曜日～金曜日
午前8時30分～午後7時45分
(雄志寮が閉寮期間中は午後5時まで)

土曜日
午前9時～午後3時45分
(館長が必要と認めた試験期間中の土・日・祝日は午後7時まで)

(2) 休館日

日曜日・国民の祝日・休日
年末年始の休日（12月29日～翌年の1月3日）
雄志寮が閉寮期間中の土曜日
※臨時休館はその都度ホームページでお知らせします。

詳しい開館日 開館時間は
図書館ホームページでご確認ください
<https://www.gifu-nct.ac.jp/tosho/>





言ノ葉テラスから図書館棟外観

蔵書数 (2025年4月1日現在)

分類	和書	洋書	合計
総記	3,306	219	3,525
哲学	3,137	195	3,332
歴史	6,009	133	6,142
社会科学	7,861	201	8,062
自然科学	16,398	3,327	19,725
工学	28,451	2,375	30,826
産業	1,313	31	1,344
芸術	4,312	159	4,471
言語	4,030	2,216	6,246
文学	14,628	2,422	17,050
計	89,445	11,278	100,723

雑誌種数

和書	洋書	合計
50	2	52

視聴覚資料数

DVD等	362
------	-----

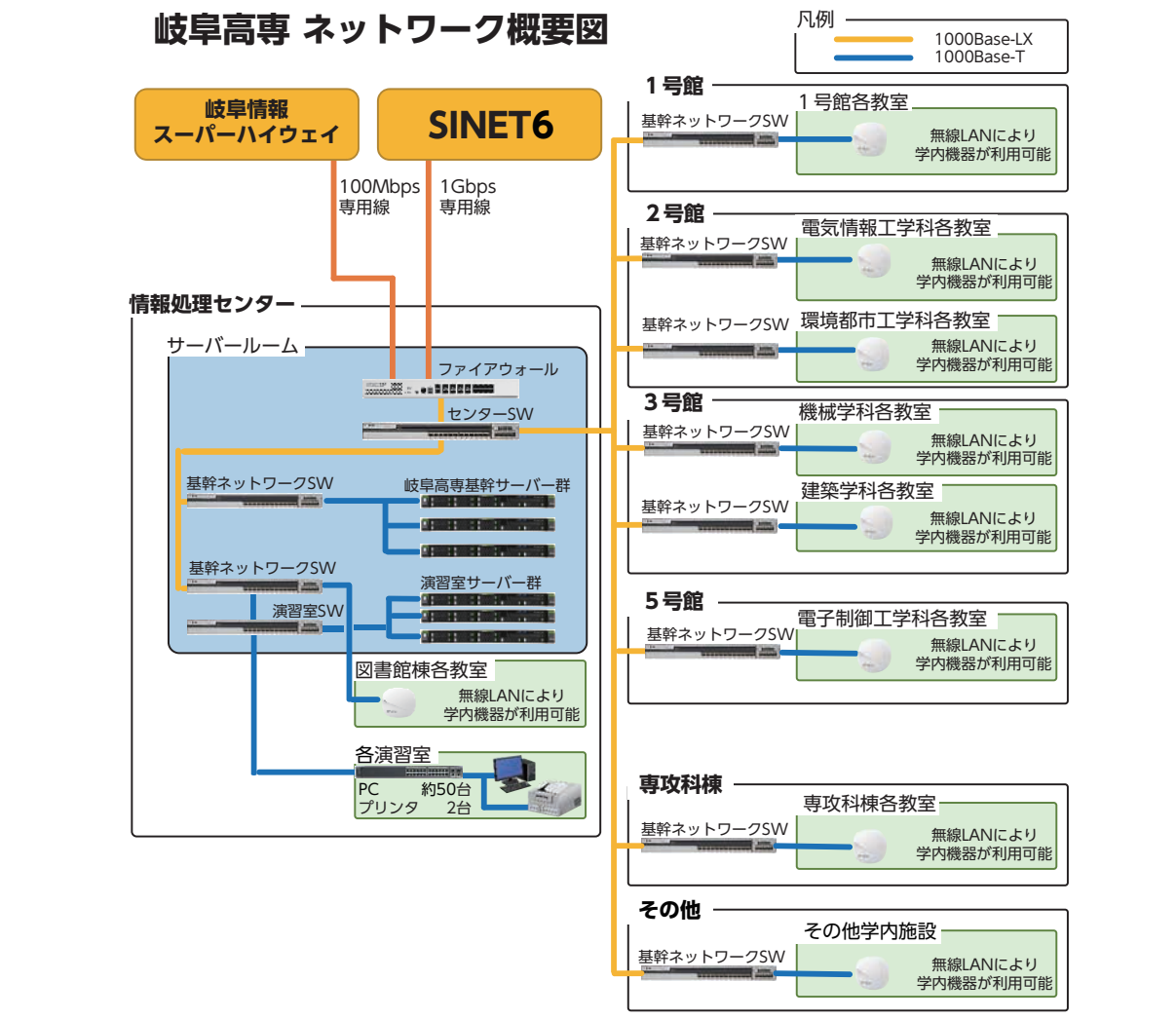


情報処理センター

情報処理センターは、情報教育、eラーニング、CAI（計算機支援による教育）、CAD（計算機支援による設計）教育及び卒業研究、学術研究などに利用できる各学科共通の施設です。

校内LANはギガビットイーサネットを整備され、外部へはSINET6及び岐阜情報スーパーハイウェイにより接続されます。

ネットワークブートシステムにより、情報処理センター内をはじめとするあわせて4つの演習室に200台のパソコンを運用しております。これらのパソコンは、インターネットにも接続されていますので、学生は電子メールでいろいろな人とコミュニケーションしたり、世界のホームページを見ることや文献の検索をしたり、教育支援システムにアクセスして自習したりすることもできます。



学 寮

本校には構内に学生寮があります。収容人員は373名です。学生寮は、「雄志寮」と称し、校舎から歩いて数分のところにあります。毎年、60名程度の新入生が入寮を希望し、許可されています。雄志寮は、男子用に5つの寮棟（A寮・C寮・D寮・E寮及びG-EAST）と女子用に3つの寮棟（B寮・F寮及びG-WEST）の併せて8つの寮棟から構成されており、その居室には机・椅子・ロッカー・ベッドなどが備えつけてあります。このうち、G寮（WEST・EAST共）は日本人学生と留学生との混在寮となっており、その1階を短期留学生用に当てています。

また、学生寮には寮生のほとんどすべてと一緒に食事をとることのできる大きな食堂も付属しています。寮生会による自主的な活動も盛んです。教員が毎晩寮内に泊まり、見回りや点呼の確認をし、規律ある生活ができるよう配慮されています。

寄宿料は2人部屋で月額700円、個室で月額800円（ただし2人部屋を一人で利用の場合は個室料金）、そのほか食費（月額約42,450円）、光熱費・共通経費等（年額72,000円）、エアコンリース料等、電気使用料（年額27,600円）が必要です。

構成及び収容人員

寮棟名	居室種類	室数	収容人員
A 寮	2人室	41	90
	1人室	8	
B 寮	1人室	36	36
C 寮	1人室	45	45
D 寮	1人室	84	84
E 寮	2人室	6	12
F 寮	2人室	16	38
	1人室	6	
G寮西	1人室	34	34
G寮東	1人室	34	34
計		310	373

寮生数

（令和7年5月1日現在）

学年 学科	1年	2年	3年	4年	5年	計
機 械 工 学 科	23(2)	19(5)	13	9	6	70(7)
電気情報 工 学 科	10(1)	12(3)	15(2) 【1】	5(2)	9(1) 【1】	51(9) 【2】
電子制御 工 学 科	18	21(4)	10(2)	13(1)	7(2) 【1】【1】	69(9) 【1】【1】
環境都市 工 学 科	13(4)	15(6)	11(1)	8(2)	8(2)	55(15)
建築学科	8(7)	13(9)	9(6)	12(10)	8(4)	50(36)
計	72(14)	80(27)	58(11) 【1】	47(15)	38(9) 【1】【2】	295(76) 【1】【3】
先端融合 開発専攻	2	1				3
計	2	1				3

※（ ）は女子学生、【 】は女子学生の内の留学生、【 】は留学生で内数



学寮



新人寮生歓迎スポーツ大会

テクノセンター

テクノセンターは学内全学科の共同利用施設であり、地域連携活動とともに、生産技術の教育や学術研究、クラブ活動などのために、工作実習や加工設備の提供、装置の製作などを行っています。例えば、卒業研究やロボットコンテストのための製作活動が行われます。また、実習教育を受けていない学生のためのセンター利用講習会や、学外の方々（中学生や一般社会人）のための公開講座も行っています。

テクノセンターには教育用の基本的な工作機械に加え、コンピュータを搭載した最新鋭の多機能工作機械が多数設置されています。その中の代表的なものを表1に示します。

なお、機械工学科第4学年では設計から製造に至る全プロセスを体験する総合実習を行っています。

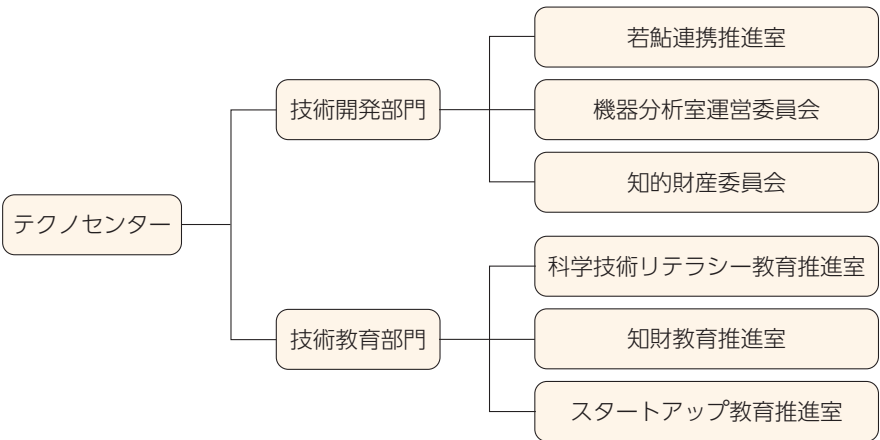
ホームページ

<https://www.gifu-nct.ac.jp/research/>



表1 代表的な設備

設備名	台数
旋盤	12
フライス盤	7
シャーリングマシン	1
電気炉	2
CNC旋盤	2
CNCフライス盤	2
マシニングセンタ	2
放電加工機	2
平面研削盤	1
産業用ロボット	2
アーク溶接機	11
ガス溶接装置	2
FA教育実習システム	1



テクノセンター組織図



マシニングセンター



放電加工機



FA教育実習システム

・機器分析室



走査型電子顕微鏡
（日立ハイテック、S-3400N）



X線回折装置
（リガク、SmartLab）



フーリエ変換赤外分光装置

・科学技術リテラシー教育推進室の活動



ぎふサイエンスフェスティバル
（メモリアルセンター）



サイエンスフェア
（モレラ岐阜）



サイエンス&テクノロジーフェア
（モレラ岐阜）

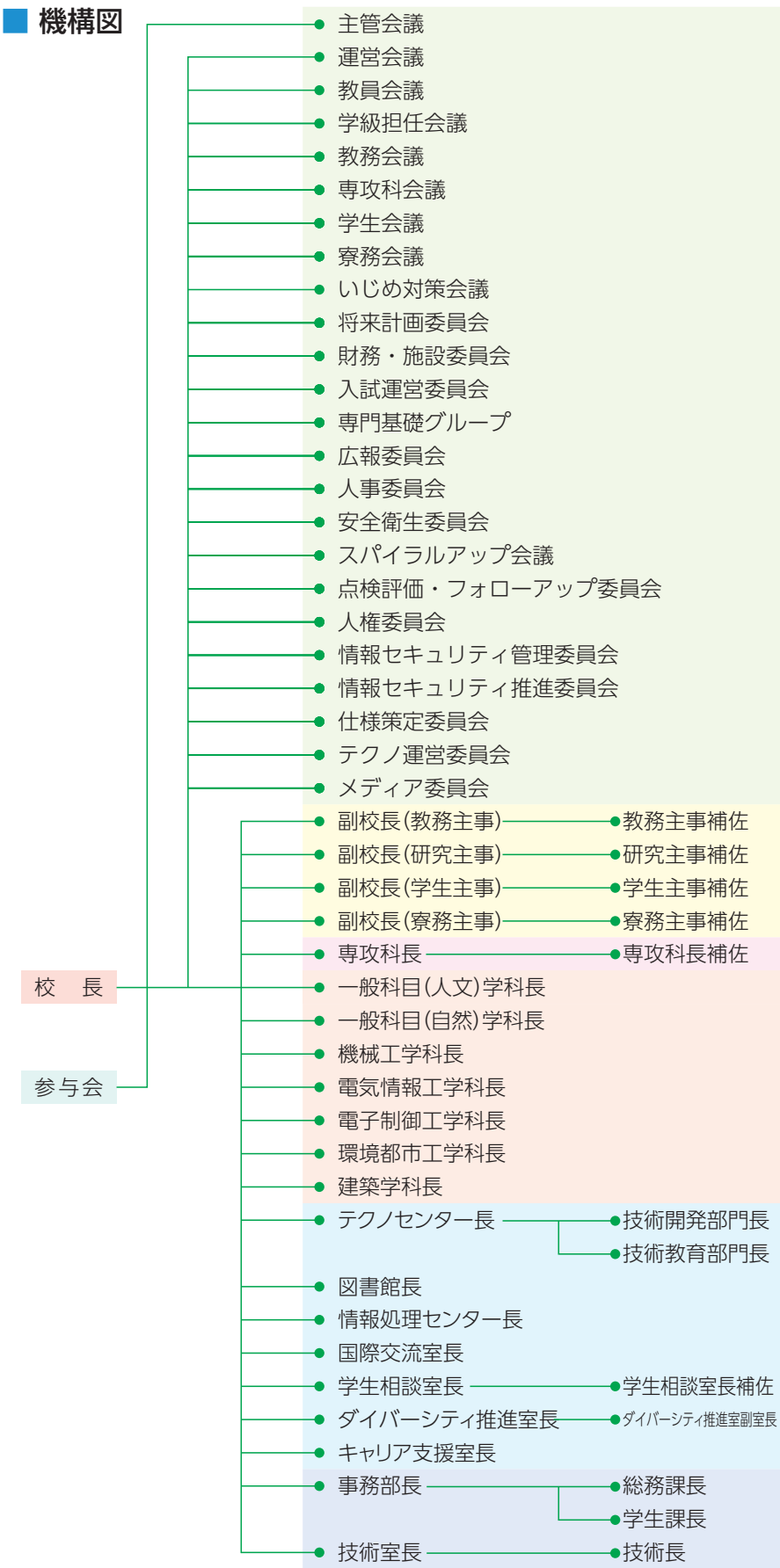
組 織

職員の現員

令和7年4月1日現在

区 分	現員	男	女
教育職員			
校 長	1	1	0
教 授	31	28	3
准 教 授	22	15	7
講 師	11	9	2
助 教	5	4	1
助 手	0	0	0
事務系職員	41	23	18
合 計	111	80	31

機構図



役職員

職 名	氏 名
校 長	大塚 友彦
副 校 長 (教 務 主 事)	柴田 良一
副 校 長 (研 究 主 事)	遠藤 登
副 校 長 (学 生 主 事)	水野 和憲
副 校 長 (寮 務 主 事)	菅 菜穂美
専 攻 科 長	鶴田 佳子
専 攻 科 長 補 佐	富田 睦雄
一 般 科 目 (人 文) 学 科 長	久保田圭司
一 般 科 目 (自 然) 学 科 長	山本 浩貴
機 械 工 学 科 長	片峯 英次
電 気 情 報 工 学 科 長	羽淵 仁恵
電 子 制 御 工 学 科 長	北川 秀夫

事務部等役職員

職 名	氏 名
事 務 部 長	竹内美佐子
総 務 課 長	阿部 亘
学 生 課 長	國枝 和代

学校医等

職 名	氏 名
学 校 医	堀部 廉
学 校 医	廣瀬 玲子
学 校 医	天野 雄平
学 校 歯 科 医	竹内 幹生

職 名	氏 名
環 境 都 市 工 学 科 長	水野 剛規
建 築 学 科 長	青木 哲
テ ク ノ セ ン タ ー 長	小林 義光
技 術 室 長	竹内美佐子
技 術 開 発 部 門 長	小林 義光
技 術 教 育 部 門 長	廣瀬 康之
図 書 館 長	中島 泰貴
情 報 処 理 セ ン タ ー 長	山田 博文
国 際 交 流 室 長	田島 孝治 10月～ 柴田 欣秀
学 生 相 談 室 長	野々村咲子
ダイバーシティ推進室長	柴田 良一

職 名	氏 名
総 務 課 課 長 補 佐 (総 務 担 当)	神谷 明宏
総 務 課 課 長 補 佐 (財 務 担 当)	田中 猛氏
学 生 課 課 長 補 佐	小木 淳
技 術 長	佐藤 健治

職 名	氏 名
学 校 薬 剤 師	高田 浩孝
カ ウ ン セ ラ ー	石原 美之
カ ウ ン セ ラ ー	笹野 愛樹
カ ウ ン セ ラ ー	野田 仁美
ス ー パ ー バ イ ザ ー (特 命 教 授)	橋本 治

教育課程

一般科目(各科共通)

平成30年度以降入学生

授業科目			単位数	学年別配当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	国語	国語 A	2	2					
		国語 B	2	2					
		総合国語	5		2	2	1		
	社会	倫理	2		2				
		政治・経済	2			2			
		世界史	2	2					
		日本史	2		2				
		地理	2	2					
		現代社会と法	2				2		
	数学	数学 AⅠ	6	2	2	2			※1
		数学 AⅡ	6	2	2	2			
	理科	数学 B	4	2	2				※2
		物理 A	1	1					
		物理 BⅠ	2		2				
		物理 BⅡ	2		2				
		化学 A	2	2					
		化学 B	2		2				
		総合理科	1	1					※3
	体育・保健	保健	2	2					
		体育	8	2	2	2	2		
	芸術	美術	1	1					
		音楽	1	1					
	外国語	英語 A	10	2	2	2	2	2	※4
		英語 B	3	2	1				※5
		英語 C	5	2	2	1			※6
		第二外国語 (ドイツ語・中国語)	4				2	2	
開設単位数合計		81	30	25	13	9	4		
修得単位数合計		81	30	25	13	9	4		
特別活動		3	1	1	1				

※1 解析
※2 代数
※3 生物・地学
※4 英文講読
※5 英文法・作文
※6 オーラルコミュニケーション

専門科目(機械工学科)

令和6年度以降入学生

授業科目			単位数	学年別配当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応 用 数 学Ⅰ	1				1			
	応 用 数 学Ⅱ	1				1			
	応 用 数 学Ⅲ	1				1			
	応 用 物 理Ⅰ	2			2				
	応 用 物 理Ⅱ	1				1			
	工 業 力 学	2			2				
	機 構 学	2			2				
	機 械 力 学Ⅰ	1				1			
	機 械 力 学Ⅱ	1				1			
	材 料 力 学Ⅰ	2			2				
	材 料 力 学Ⅱ	1				1			
	材 料 力 学Ⅲ	1				1			
	流 体 力 学Ⅰ	2				2			
	熱 力 学Ⅰ	2				2			
	材 料 学Ⅰ	1			1				
	材 料 学Ⅱ	1				1			
	機 械 工 作 法Ⅰ	1		1					
	機 械 工 作 法Ⅱ	1		1					
	機 械 工 作 法Ⅲ	1				1			
	生 産 工 学	1					1		
	制 御 工 学Ⅰ	1				1			
	計 測 工 学	1			1				
	機 械 設 計 法Ⅰ	1			1				
	機 械 設 計 法Ⅱ	1				1			
	情 報 リテラシー	1		1					
	情 報 処 理Ⅰ	1			1				
	情 報 処 理Ⅱ	1				1			
	数 値 計 算 法	1			1				
	ものづくり入門	3	3						
	機 械 設 計 製 図Ⅰ	2		2					
機 械 設 計 製 図Ⅱ	2			2					
機 械 工 学 実 験Ⅰ	2			2					
機 械 工 学 実 験Ⅱ	2				2				
機 械 工 学 実 習Ⅰ	3		3						
機 械 工 学 実 習Ⅱ	3			3					
創 生 工 学 実 習	3				3				
機 械 工 学 演 習					1				
機 械 工 学 基 礎 研 究	2				2				
技 術 者 倫 理	1					1			
卒 業 研 究	8						8		
小 計	66	3	8	20	25	10			
選択科目	応 用 物 理Ⅲ	2					2		
	流 体 力 学Ⅱ	2					2		
	熱 力 学Ⅱ	2					2		
	エ ネ ル ギ ー 工 学	2					2		
	伝 熱 工 学	2					2		
	材 料 学Ⅲ	2					2		
	制 御 工 学Ⅱ	2					2		
	電 気 ・ 電 子 工 学 概 論	2					2		
	工 学 解 析	2					2		
	連 続 体 力 学 入 門	2					2		
	シ ス テ ム 工 学	2					2		
	メ カ ト ロ ニ ク ス	2					2		
	ロ ボ ッ ト 工 学	2					2		
	機 械 工 学 特 論	2					2		
	AⅠ実践	2					2		
	選択科目開設単位数	30					30		
	選択科目修得単位数	20以上					20以上		
専門科目開設単位数合計		96	3	8	20	25	40		
専門科目修得単位数合計		86以上	3	8	20	25	30以上		
一般科目修得単位数合計		81	30	25	13	9	4		
合 計 修 得 単 位 数		167以上	33	33	33	34	34以上		

専門科目(電気情報工学科)

電気電子工学コース

令和6年度以降入学生

授業科目			単位数	学年別配当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	共通科目	応用数学 A	1			1			
		応用数学 B	2				2		
		応用数学 C	1				1		
		応用数学 D	1				1		
		応用物理Ⅰ	4			2	2		
		電気磁気学Ⅰ	3			2	1		
		電気回路Ⅰ	4		2	2			
		電子工学Ⅰ	2				2		
		電気情報工学基礎演習	2			2			
		電子回路	2			2			
		電気情報工学演習Ⅰ	1				1		
		電気情報工学演習Ⅱ	1				1		
		情報ネットワーク	2				2		
		論理学	1		1				
		計算機アーキテクチャ	2			2			
		スイッチング回路理論	1				1		
		数値解析	2				2		
		信号処理	2				2		
		プログラミング	4		2	2			
		技術英語	1			1			
	技術者倫理	1					1		
	電気電子設計製図	3	3						
	電気情報工学実験	9		3	4	2			
	工学基礎研究Ⅰ	1				1			
	工学基礎研究Ⅱ	1				1			
卒業研究	6					6			
コース別科目	電気電子工学実験	6				2	4		
	電気磁気学Ⅱ	1				1			
	電気回路Ⅱ	1				1			
	電気機器	2				2			
	小計	70	3	8	20	28	11		
選択科目	海外研修Ⅰ	1					1	※2	
	海外研修Ⅱ	2					2		
	海外研修Ⅲ	3					3		
	海外研修Ⅳ	4					4		
	海外研修Ⅴ	5					5		
	海外研修Ⅵ	6					6		
	発変電工学	2					2		
	送配電工学	2					2		
	電気法規	2					2		
	パワーエレクトロニクス	2					2		
	電気材料	2					2		
	自動制御	2					2		
	光・量子エレクトロニクス	2					2		
	電磁エレクトロニクス	2					2		
	電子計測	2					2		
	電子工学Ⅱ	2					2		
	応用物理Ⅱ	2					2	※1	
	通信工学	2					2		
	ソフトウェア工学	2					2		
	プログラミング言語論	2					2		
	OSとデータベース	2					2		
	CGとインタフェース	2					2		
	AⅠ実践	2					2		
	選択科目開設単位数		55					55	
	選択科目修得単位数		16以上					16以上	
専門科目開設単位数合計		125	3	8	20	28	66		
専門科目修得単位数合計		86以上	3	8	20	28	27以上		
一般科目修得単位数合計		81	30	25	13	9	4		
合計修得単位数		167以上	33	33	33	37	31以上		

※1 電子制御工学科と共通 ※2 海外研修Ⅰ～Ⅵは実施期間より1科目のみ選択可能

情報工学コース

令和6年度以降入学生

授業科目		単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	共通科目	応用数学 A	1			1		
		応用数学 B	2				2	
		応用数学 C	1				1	
		応用数学 D	1				1	
		応用物理Ⅰ	4			2	2	
		電気磁気学Ⅰ	3			2	1	
		電気回路Ⅰ	4		2	2		
		電子工学Ⅰ	2				2	
		電気情報工学基礎演習	2			2		
		電子回路	2			2		
		電気情報工学演習Ⅰ	1				1	
		電気情報工学演習Ⅱ	1				1	
		情報ネットワーク	2				2	
		論理学	1		1			
		計算機アーキテクチャ	2			2		
		スイッチング回路理論	1				1	
		数値解析	2				2	
		信号処理	2				2	
		プログラミング	4		2	2		
		技術英語	1			1		
	技術者倫理	1					1	
	電気電子設計製図	3	3					
	電気情報工学実験	9		3	4	2		
	工学基礎研究Ⅰ	1				1		
	工学基礎研究Ⅱ	1				1		
	卒業研究	6					6	
	コース別科目	情報工学実験	6				2	4
		情報理論	1				1	
		データ構造とアルゴリズム	1				1	
		言語理論	1				1	
		情報数学	1				1	
		小計	70	3	8	20	28	11
選択科目		発変電工学	2					2
	送配電工学	2					2	
	電気法規	2					2	
	パワーエレクトロニクス	2					2	
	電気材料	2					2	
	自動制御	2					2	
	光・量子エレクトロニクス	2					2	
	電磁エレクトロニクス	2					2	
	電子計測	2					2	
	電子工学Ⅱ	2					2	
	応用物理Ⅱ	2					2	
	通信工学	2					2	
	ソフトウェア工学	2					2	
	プログラミング言語論	2					2	
	OSとデータベース	2					2	
	CGとインタフェース	2					2	
	海外研修Ⅰ	1					1	
	海外研修Ⅱ	2					2	
	海外研修Ⅲ	3					3	
	海外研修Ⅳ	4					4	
	海外研修Ⅴ	5					5	
	海外研修Ⅵ	6					6	
	AI実践	2					2	
選択科目開設単位数		55					55	
選択科目修得単位数		16以上					16以上	
専門科目開設単位数合計		125	3	8	20	28	66	
専門科目修得単位数合計		86以上	3	8	20	28	27以上	
一般科目修得単位数合計		81	30	25	13	9	4	
合計修得単位数		167以上	33	33	33	37	31以上	

教育課程

■ 専門科目(電子制御工学科)

令和6年度以降入学生

	授業科目	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学Ⅰ	1			1			
	応用数学Ⅱ	2				2		
	応用数学Ⅲ	2				2		
	応用数学Ⅳ	2				2		
	応用物理Ⅰ	2			2			
	応用物理Ⅱ	2				2		
	情報処理Ⅰ	2		2				
	情報処理Ⅱ	2			2			
	電子制御工学概論	1	1					
	電磁気学Ⅰ	2			2			
	電磁気学Ⅱ	2				2		
	電気回路Ⅰ	1		1				
	電気回路Ⅱ	2			2			
	電子回路	2			2			
	計測工学	2				2		
	制御工学Ⅰ	2				2		
	制御工学Ⅱ	2				2		
	機械運動学Ⅰ	2			2			
	機械運動学Ⅱ	2				2		
	材料力学Ⅰ	2			2			
	技術者倫理	1				1		
	電子制御基礎演習Ⅰ	1		1				
	電子制御基礎演習Ⅱ	1			1			
	電子制御設計製図	2		2				
	電子制御工学実験Ⅰ	4			4			
	電子制御工学実験Ⅱ	4				4		
	電子制御総合演習	2				2		
	電子制御工学実習Ⅰ	2	2					
選択科目	電子制御工学実習Ⅱ	2		2				
	工学基礎研究	4				4		
	卒業研究	12					12	
	小計	72	3	8	20	29	12	
	応用物理Ⅲ	2					2	
	情報処理Ⅲ	2					2	
	情報応用工学	2					2	
	電気応用工学	2					2	
	電子応用工学	2					2	
	制御工学Ⅲ	2					2	
	材料力学Ⅱ	2				2		
	ロボット工学	2					2	
	機械応用工学	2					2	
	AⅠ実践	2					2	
	選択科目開設単位数	20					20	
	選択科目修得単位数	14以上					14以上	
	専門科目開設単位数合計	92	3	8	20	29	32	
	専門科目修得単位数合計	86以上	3	8	20	29	26以上	
	一般科目修得単位数合計	81	30	25	13	9	4	
	合計修得単位数	167以上	33	33	33	38	30以上	

■ 専門科目(環境都市工学科)

令和7年度以降入学生

	授業科目	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学	2				2		
	応用物理	2			2			
	シビルエンジニアリング入門	1.5	1.5					
	シビルエンジニアリング入門実習	1.5	1.5					
	環境都市工学基礎Ⅰ	2		2				
	環境都市工学基礎Ⅱ	2		2				
	環境都市工学基礎実習Ⅰ	2		2				
	環境都市工学基礎実習Ⅱ	2		2				
	環境都市工学実習Ⅰ	4			4			
	環境都市工学実習Ⅱ	4				4		
	総合実験	2					2	
	プログラミング	1			1			
	設計製図	2				2		
	構造力学Ⅰ	2			2			
	構造力学Ⅱ	2				2		
	構造設計学	1				1		
	水理学Ⅰ	2			2			
	水理学Ⅱ	2				2		
	応用水理学	2					2	
	地盤力学Ⅰ	2			2			
	地盤力学Ⅱ	2				2		
	地盤工学	2					2	
	数理計画学Ⅰ	2			2			
	数理計画学Ⅱ	1				1		
	都市工学	1				1		
	コンクリート工学Ⅰ	2			2			
	コンクリート工学Ⅱ	2				2		
	測量学	1			1			
選択科目	測量実習	2			2			
	空間情報工学	1					1	
	社会基盤工学	1				1		
	建設マネジメント	1					1	
	環境工学Ⅰ	1			1			
	環境工学Ⅱ	2				2		
	循環型社会形成論	2					2	
	総合演習Ⅰ	1				1		
	総合演習Ⅱ	1					1	
	卒業研究	10					10	
	小計	76	3	8	21	23	21	
	構造解析学	2					2	
	河川水文学	2					2	
	地盤力学Ⅲ	2					2	
	都市交通計画	2					2	
	実践コンクリート工学	2					2	
	環境生物・生態学	2					2	
	AⅠ実践	2					2	
	選択科目開設単位数	14					14	
	選択科目修得単位数	10以上					10以上	
	専門科目開設単位数合計	90	3	8	21	23	35	
	専門科目修得単位数合計	86以上	3	8	21	23	31以上	
	一般科目修得単位数合計	81	30	25	13	9	4	
	合計修得単位数	167以上	33	33	34	32	35以上	

■ 専門科目(建築学科)

令和6年度以降入学生

	授業科目	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学A	1				1		
	応用数学B	1				1		
	応用物理Ⅰ	2			2			
	応用物理Ⅱ	1				1		
	建築学通論	1	1					
	デジタルデザインⅠ	1			1			
	デジタルデザインⅡ	1			1			
	情報処理Ⅰ	1			1			
	構造力学Ⅰ	2			2			
	構造力学Ⅱ	2				2		
	建築材料Ⅰ	1				1		
	材料力学Ⅰ	1			1			
	建築構法Ⅰ	1	1					
	建築構法Ⅱ	1		1				
	木質構造	1			1			
	R C 構造Ⅰ	2				2		
	R C 構造Ⅱ	2					2	
	鉄骨構造Ⅰ	2				2		
	鉄骨構造Ⅱ	2					2	
	空間デザイン基礎	1		1				
	インテリア基礎	1		1				
	インテリアデザイン論	1			1			
	インテリア設計	2				2		
	建築史Ⅰ	2		2				
	建築史Ⅱ	1				1		
	建築計画Ⅰ	2			2			
	建築計画Ⅱ	2				2		
	地域都市計画	1				1		
選択科目	環境社会学	1			1			
	環境工学基礎	1			1			
	環境工学	2				2		
	建築設備	2				2		
	環境デザイン	2					2	
	建築製図Ⅰ	2	2					
	建築製図Ⅱ	2		2				
	建築設計製図Ⅰ	4			4			
	建築設計製図Ⅱ	4				4		
	建築環境実験	1			1			
	建築構造実験	1			1			
	建築技術者倫理	1				1		
	総合演習	1				1		
	建築生産	2					2	
	建築法規	2					2	
	測量学	2					2	
	防災工学	2					2	
	卒業研究	8					8	
	小計	79	4	7	20	26	22	
	土質基礎工学	2					2	
	構造設計	2					2	
	計画特論	2					2	
	参加のデザイン	2					2	
	建築史Ⅲ	2					2	
	建築設計製図Ⅲ	2					2	
	建築計画演習	2					2	
	建築設備演習	2					2	
	建築材料Ⅱ	2					2	
	AⅠ実践	2					2	
	選択科目開設単位数	20					20	
	選択科目修得単位数	7以上					7以上	
	専門科目開設単位数合計	99	4	7	20	26	42	
	専門科目修得単位数合計	86以上	4	7	20	26	29以上	
	一般科目修得単位数合計	81	30	25	13	9	4	
	合計修得単位数	167以上	34	32	33	35	33以上	

■ 先端融合開発専攻教育課程

令和4年度以降入学生

区分		授業科目	授業種別	単位数	開講時期		備考
					1年次	2年次	
一般科目	必修	社会倫理学特論	講義	2		2	
		英語特講1	講義	2	2		
		英語特講2	講義	2	2		
		必修科目開設単位数計	6	4	2		
	選択	文学	講義	2		2	
		英語演習1	演習	1		1	
		英語演習2	演習	1		1	
		先端数学入門	講義	2	2		
		選択科目開設単位数計	6	2	4		
	一般科目開設単位数合計				12	6	6
専門基盤科目	必修	創造工学実習	実験実習	2		2	
		必修科目開設単位数計	2	0	2		
	選択	応用物理学	講義	2	2		
		生命科学	講義	2	2		
		物質化学	講義	2		2	
		デジタル計測制御	講義	2	2		
		国際連携実習1	実験実習	1	1		
		国際連携実習2	実験実習	1		1	
		ヒューマンインターフェースデザイン	講義	2		2	
		計算力学	講義	2	2		
		量子力学	講義	2	2		
		統計力学	講義	2		2	
		情報工学	講義	2		2	
		応用数学特論	講義	2	2		
		企業経営概論	講義	2	2		
		プロジェクトマネジメント	講義	2		2	
		科学技術リテラシー教育実習	実験実習	2	2		
		先端実験入門	講義	2		2	
		選択科目開設単位数計	30	17	13		
		専門基盤科目開設単位数計				32	17
専門科目	必修	特別実験	実験実習	4	4		
		特別実習1	実験実習	2	2		
		特別研究1	実験実習	6	6		
		特別研究2	実験実習	8		8	
	選択	必修科目開設単位数計	20	12	8		
		医療福祉工学特論	講義	2	2		
		画像情報処理	講義	2		2	
		メカトロニクス特論	講義	2		2	
		航空宇宙工学特論	講義	2	2		
		空気力学特論	講義	2		2	
		材料分析工学	講義	2		2	
		リノベーションデザイン論	講義	2	2		
		循環型社会特論	講義	2	2		
		新エネルギー特論	講義	2		2	
		維持管理工学	講義	2		2	
		環境材料学	講義	2	2		
		環境計画学	講義	2		2	
		拡散現象論	講義	2	2		
		回路網学	講義	2	2		
		電気機器特論	講義	2		2	
デジタルシステム基礎	講義	2	2				
建設計画学	講義	2	2				
水管理工学	講義	2		2			
建設振動学特論	講義	2		2			
構造解析学特論	講義	2	2				
環境調整工学	講義	2	2				
都市形成論	講義	2		2			
特別実習2	実験実習	1	1				
選択科目開設単位数計	45	23	22				
専門展開科目開設単位数計				65	35	30	
専門科目開設単位数合計				97	52	45	
開設単位数合計				109	58	51	
一般科目・専門科目修得単位数合計				62単位以上修得			

学 生

入学定員・学生数

令和7年4月1日現在

学 科	入学定員	1年	2年	3年	4年	5年	計
機 械 工 学 科	40	43 (3)	42 (9)	46 (5)	43 (3)	38 (5)	212 (25)
電 気 情 報 工 学 科	40	43 (9)	42 (12)	50 (8) ①	39 (4) ●	41 (6) ①●	215 (39) ②●
電 子 制 御 工 学 科	40	42 (6)	45 (8) ●	45 (7) ●	42 (5) ●	38 (4) ①	212 (30) ①●
環 境 都 市 工 学 科	40	41 (16)	44 (18)	41 (11)	38 (11)	44 (16)	208 (72)
建 築 学 科	40	41 (24)	41 (20)	47 (24) ●	41 (23) ●	37 (19)	207 (110) ●
合 計	200	210 (58)	214 (67) ●	229 (55) ①●	203 (46) ●	198 (50) ②●	1054 (276) ③●
先 端 融 合 開 発 専 攻	20	33 (9)	35 (8)				68 (17)
合 計	20	33 (9)	35 (8)				68 (17)

注()内は女子学生、○は留学生、●は休学者でともに内数

外国人留学生

令和7年4月1日現在

学 科	学年	インドネシア	カンボジア	タイ	計
機 械 工 学 科	3年				
	4年				
	5年				
電 気 情 報 工 学 科	3年			1	1
	4年				
	5年		1		1
電 子 制 御 工 学 科	3年				
	4年				
	5年	1(1)			1(1)
環 境 都 市 工 学 科	3年				
	4年				
	5年				
建 築 学 科	3年				
	4年				
	5年				
合 計		1(1)	1	1	3(1)

注()内は女子学生、内数

奨学生(日本学生支援機構)

令和6年度

学 科	1年	2年	3年	4年	5年	計
機 械 工 学 科	0	0	0	3	6	9
電 気 情 報 工 学 科	0	0	0	5	2	7
電 子 制 御 工 学 科	0	0	0	3	5	8
環 境 都 市 工 学 科	1	0	1	11	4	17
建 築 学 科	0	0	0	7	4	11
合 計	1	0	1	29	21	52
先 端 融 合 開 発 専 攻	2	4				6
合 計	2	4				6

注()内は女子学生、内数

学 生

出身県別学生数

令和7年5月1日現在

学 科	学年	岐阜	愛知	滋賀	その他	計
機 械 工 学 科	1年	30(1)	7(0)	2(0)	4(2)	43(3)
	2年	29(3)	10(4)	2(1)	1(1)	42(9)
	3年	39(4)	5(1)	2(0)	0	46(5)
	4年	36(2)	6(1)	0	1(0)	43(3)
	5年	32(4)	5(1)	0	1(0)	38(5)
電 気 情 報 工 学 科	1年	34(7)	8(1)	0	1(1)	43(9)
	2年	33(10)	3(1)	5(1)	1(0)	42(12)
	3年	38(5)	9(2)	1(0)	1(1)	49(8)
	4年	31(1)	6(2)	2(1)	0	39(4)
	5年	31(4)	7(1)	1(1)	1(0)	40(6)
電 子 制 御 工 学 科	1年	33(6)	6(0)	3(0)	0	42(6)
	2年	30(5)	7(2)	4(0)	4(1)	45(8)
	3年	40(7)	2(0)	3(0)	0	45(7)
	4年	33(5)	8(0)	1(0)	0	42(5)
	5年	34(2)	2(0)	1(1)	0	37(3)
環 境 都 市 工 学 科	1年	35(15)	3(1)	3(0)	0	41(16)
	2年	37(15)	6(3)	0	1(0)	44(18)
	3年	37(10)	3(0)	1(1)	0	41(11)
	4年	30(10)	6(1)	0	2(0)	38(11)
	5年	35(12)	8(4)	1(0)	0	44(16)
建 築 学 科	1年	35(19)	2(1)	2(2)	2(2)	41(24)
	2年	32(15)	7(4)	0	2(1)	41(20)
	3年	45(22)	1(1)	0	1(1)	47(24)
	4年	36(19)	3(3)	0	2(1)	41(23)
	5年	28(11)	5(4)	0	4(4)	37(19)
合 計		853(214)	135(38)	34(8)	29(15)	1051(275)
比 率 (%)		81.2	12.8	3.2	2.8	100.0

注()内は女子学生、内数

専攻科出身学校別学生数

令和7年5月1日現在

学 科	学年	岐阜高専	明石高専	計
先 端 融 合 開 発 専 攻	1年	32(9)	1(0)	33(9)
	2年	35(8)		35(8)
合 計		67(17)	1(0)	68(17)

注()内は女子学生、内数

入学志願者数及び倍率

学 科	定員	令和4年度 2022		令和5年度 2023		令和6年度 2024		令和7年度 2025	
		志願者数	倍率	志願者数	倍率	志願者数	倍率	志願者数	倍率
機 械 工 学 科	40	53(2)	1.33	55(7)	1.38	50(9)	1.25	56(5)	1.40
電 気 情 報 工 学 科	40	50(4)	1.25	67(10)	1.68	96(15)	2.40	66(10)	1.65
電 子 制 御 工 学 科	40	50(6) 1	1.25	58(6)	1.45	76(12) 3	1.90	48(5)	1.20
環 境 都 市 工 学 科	40	57(11)	1.43	48(14)	1.20	66(25)	1.65	40(14)	1.00
建 築 学 科	40	81(40)	2.03	56(23)	1.40	86(38)	2.15	47(28)	1.18
合 計	200	291(63) 1	1.46	284(60) 1	1.42	374(99) 3	1.87	257(62)	1.29

注()内は女子学生、内数、志願者数の下段は、帰国子女特別選抜の志願者数を示す。

編入学志願者数及び入学者数

学 科	令和4年度 2022		令和5年度 2023		令和6年度 2024		令和7年度 2025	
	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数
機 械 工 学 科								
電 気 情 報 工 学 科								
電 子 制 御 工 学 科								
環 境 都 市 工 学 科					0	0		
建 築 学 科			1	0	0	0	1	0
合 計			1	0	0	0	1	0

注()内は女子学生、内数

専攻科志願者数及び入学者数

学 科	令和4年度 2022		令和5年度 2023		令和6年度 2024		令和7年度 2025	
	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数
先 端 融 合 開 発 専 攻	89(11)	35(4)	98(15)	39(9)	70(12)	34(8)	64(13)	33(9)
合 計	89(11)	35(4)	98(15)	39(9)	70(12)	34(8)	64(13)	33(9)

注()内は女子学生、内数

卒業生の進路

年 度	学 科	卒業者数	就職者数	進学者数	その他
令和3年度 (2021)	機 械 工 学 科	41(3)	19(2)	21(1)	1
	電 気 情 報 工 学 科	43(5)	21(2)	22(3)	
	電 子 制 御 工 学 科	39(1)	16(1)	22	1
	環 境 都 市 工 学 科	41(12)	34(8)	6(4)	1
	建 築 学 科	37(15)	22(13)	15(2)	
令和4年度 (2022)	計	201(36)	112(26)	86(10)	3
	機 械 工 学 科	39(1)	14	25(1)	0
	電 気 情 報 工 学 科	38(3)	16(3)	20	2
	電 子 制 御 工 学 科	36(2)	13(2)	22	1
	環 境 都 市 工 学 科	40(12)	28(10)	12(2)	0
	建 築 学 科	44(28)	29(19)	14(9)	1
令和5年度 (2023)	計	197(46)	100(34)	93(12)	4
	機 械 工 学 科	42(2)	22(1)	20(1)	0
	電 気 情 報 工 学 科	39(10)	17(5)	20(5)	2
	電 子 制 御 工 学 科	45(3)	21(2)	24(1)	0
	環 境 都 市 工 学 科	39(17)	28(13)	11(4)	0
	建 築 学 科	38(21)	28(17)	10(4)	0
令和6年度 (2024)	計	203(53)	116(38)	85(15)	2
	機 械 工 学 科	38(5)	18(1)	20(4)	0
	電 気 情 報 工 学 科	38(3)	17(1)	19(2)	2
	電 子 制 御 工 学 科	37(3)	20(1)	17(2)	0
	環 境 都 市 工 学 科	41(15)	27(10)	14(5)	0
	建 築 学 科	39(20)	24(14)	14(6)	1
計		193(46)	106(27)	84(19)	3

注()内は女子学生、内数

大学編入学及び高等専門学校専攻科入学状況

大学名	編入学年度	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
北 海 道 大 学		1	2	1	1
東 北 大 学					1
秋 田 大 学		1			
筑 波 大 学		2	1	1	3
千 葉 大 学		3	3	1	1
東 京 大 学					2
東 京 外 国 語 大 学			1		
電 気 通 信 大 学		2		1	1
横 浜 国 立 大 学			1	1	5
長 岡 技 術 科 学 大 学			8	3	3
新 潟 大 学		1			
富 山 大 学		1	1	1	1
金 沢 大 学		4	4	1	2
福 井 大 学		3			
山 梨 大 学					1
岐 阜 大 学		17	10	8	5
静 岡 大 学				2	1
名 古 屋 大 学		3	3	2	
名 古 屋 工 業 大 学		1	1	4	3
豊 橋 技 術 科 学 大 学		5	6	10	10
三 重 大 学		1	2	1	1
大 阪 大 学			2	2	
神 戸 大 学		1	2	1	
奈 良 女 子 大 学				1	
岡 山 大 学			1	1	1
九 州 大 学		3	2	3	1
九 州 工 業 大 学				1	1
熊 本 大 学					2
鹿 児 島 大 学		1			
東 京 都 立 大 学			1	2	
富 山 県 立 大 学			1		
工 学 院 大 学			1		
東 京 都 市 大 学		1		1	
早 稲 田 大 学				1	2
名 城 大 学					2
豊 田 工 業 大 学					1
同 志 社 大 学		1			
立 命 館 大 学			1	1	
近 畿 大 学				1	
岐 阜 高 専 (専 攻 科)		35	39	34	32
H A L 名 古 屋		1		2	1
ヒューマンアカデミー		1			
名古屋情報メディア専門学校					1
計		89	93	87	85

卒業生の進路

大学院入学状況

大学院名	入学年度	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
東 北 大 学 大 学 院					1
千 葉 大 学 大 学 院				1	
筑 波 大 学 大 学 院		2	3	1	2
東 京 大 学 大 学 院			1		
長岡技術科学大学大学院		2	1		1
北陸先端科学技術大学院大学		4	1		
豊橋技術科学大学大学院		2	1	1	
名古屋大学大学院		1	1	1	2
名古屋工業大学大学院			1	2	
大阪大学大学院		1			
奈良先端科学技術大学院大学		1	2	2	2
九州大学大学院			2		
熊本大学大学院			1		
早稲田大学大学院			1		
神戸大学大学院					1
岐阜県立森林文化アカデミー					1
計		13	15	8	10

注()内は過年度卒業生、内数

就職

年 度	学 科	就職者数	求人数	求人倍率	就職地		就職先		
					県内	県外	企業	公務員	公団・公社
令和4年度 (2022)	機 械 工 学 科	14	668	47.7	5	9	14	0	0
	電 気 情 報 工 学 科	16(3)	677	42.3	0	16(3)	15(2)	1(1)	0
	電 子 制 御 工 学 科	13(2)	647	49.8	2	11(2)	11(2)	2	0
	環 境 都 市 工 学 科	28(10)	483	17.3	7	21(10)	15(5)	13(5)	0
	建 築 学 科	29(19)	507	17.5	4(3)	25(16)	28(18)	0	1(1)
令和5年度 (2023)	計	100(34)	2982	29.8	18(3)	82(31)	83(27)	16(6)	1(1)
	機 械 工 学 科	18(1)	848	47.1	3	19(1)	22(1)	0	0
	電 気 情 報 工 学 科	17(1)	844	49.6	0	17(5)	17(5)	0	0
	電 子 制 御 工 学 科	20(1)	833	41.7	2	19(2)	21(2)	0	0
	環 境 都 市 工 学 科	27(10)	698	25.9	5(2)	23(11)	13(7)	15(6)	0
令和6年度 (2024)	建 築 学 科	24(14)	697	29	0	28(17)	28(17)	0	0
	計	106(27)	3920	37	10(2)	106(36)	101(32)	15(6)	0
	機 械 工 学 科	18(1)	848	47.1	0	18(1)	18(1)	0	0
	電 気 情 報 工 学 科	17(1)	844	49.6	1	16(1)	17(1)	0	0
	電 子 制 御 工 学 科	20(1)	833	41.7	4	16(1)	20(1)	0	0
令和6年度 (2024)	環 境 都 市 工 学 科	27(10)	698	25.9	8(2)	19(8)	15(10)	10(3)	2(2)
	建 築 学 科	24(14)	697	29	1(1)	23(13)	23(13)	1(1)	0
	計	106(27)	3920	37	14(3)	92(24)	93(26)	11(4)	2(2)

注()内は女子学生、内数

専攻科

年 度	専 攻	修了者数	就職者数	進学者数	その他	求人数	求人倍率	就職地		就職先		
								県内	県外	企業	公務員	公団・公社
令和4年度 (2022)	先 端 融 合 開 発 専 攻 (機械・電気情報・電子制御)	27(2)	13(2)	13	1	602	46.3	1	12(2)	13(2)	0	0
	先 端 融 合 開 発 専 攻 (環 境 都 市 ・ 建 築)	12(7)	10(5)	2(2)	0	446	44.6	1(1)	9(4)	8(5)	2	0
	計	39(9)	23(7)	15(2)	1	1048	45.6	2(1)	21(6)	21(7)	2	0
令和5年度 (2023)	先 端 融 合 開 発 専 攻 (機械・電気情報・電子制御)	18	13	5	0	655	50.4	1	12	13	0	0
	先 端 融 合 開 発 専 攻 (環 境 都 市 ・ 建 築)	15(4)	12(4)	3	0	473	39.4	1(1)	11(3)	8	4	0
	計	33(4)	25(4)	8	0	1128	45.1	2(1)	23(3)	21	4	0
令和6年度 (2024)	先 端 融 合 開 発 専 攻 (機械・電気情報・電子制御)	27(1)	18(1)	8	1	554	30.8	2(1)	16(1)	18(1)	0	0
	先 端 融 合 開 発 専 攻 (環 境 都 市 ・ 建 築)	15(8)	13(7)	2(1)	0	607	46.7	2(1)	11(6)	13(7)	1	0
	計	42(9)	31(8)	10(1)	1	1161	37.5	4(2)	27(7)	31(8)	1	0

注1()内は女子学生、内数

財 政

※掲載している数値は四捨五入しているため、内訳の合計が「計」と一致しない場合がある。

■ 運営費交付金等収支状況

(単位:千円)

収 入		支 出	
運 営 費 交 付 金	21,439	151,423	教 育 研 究 経 費
授 業 料 収 入	260,738	9,272	教 育 研 究 支 援 経 費
入 学 金 収 入	20,414	20,689	一 般 管 理 費
検 定 料 収 入	5,219	132,847	共 通 (教 育 研 究 ・ 支 援 ・ 一 般 管 理)
雑 収 入	6,334		
計	314,144	314,232	

■ 補助金等採択状況

(単位:千円)

区 分	年 度	令和3年度(2021)	令和4年度(2022)	令和5年度(2023)	令和6年度(2024)
施 設 整 備 費 補 助 金		464,588	272,030	1,582	527,626
(独)大学改革支援・学位授与機構施設費交付事業		18,480	0	25,256	28,600
設 備 整 備 費 補 助 金		33,302	16,820	28,686	18,618
原 子 力 人 材 育 成 等 推 進 補 助 金		265	2,702	380	1
大 学 改 革 推 進 等 補 助 金		0	0	101,924	0
計		516,635	291,553	157,828	574,845

■ 科学研究費助成事業受入状況

(単位:千円)

区 分	年 度	令和3年度(2021)		令和4年度(2022)		令和5年度(2023)		令和6年度(2024)	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
基 盤 研 究 (B)		0	0	0	0	0	0	0	0
基 盤 研 究 (C)		15	14,400	14	11,600	17	10,500	19	15,300
挑 戦 的 研 究		0	0	0	0	0	0	0	0
若 手 研 究		6	3,021	6	5,070	6	4,550	10	10,600
奨 励 研 究		0	0	1	430	1	480	0	0
研 究 活 動 ス タ ー ト 支 援		1	300	1	1,100	1	1,100	2	3,100
研 究 成 果 公 開 促 進 費		0	0	0	0	0	0	0	0
計		22	17,721	22	18,200	25	16,630	31	29,000

上段は直接経費、下段は間接経費

■ 外部資金受入状況

(単位:千円)

区 分	年 度	令和3年度(2021)		令和4年度(2022)		令和5年度(2023)		令和6年度(2024)	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
産 研 学 連 究 携 等 費	受 託 研 究	2	1,999	4	2,205	5	8,626	5	4,735
	受 託 事 業	2	3,713	1	801	0	0	1	89
	受 託 試 験	0	0	0	0	0	0	0	0
	共 同 研 究	9	4,871	8	3,830	11	5,425	15	8,810
小 計		13	10,583	13	6,836	16	14,051	21	13,634
寄 附 金		35	20,101	45	20,019	33	18,197	31	7,509
そ の 他 の 助 成 金 等		18	22,500	21	22,887	21	29,250	25	33,790
計		66	53,183	79	49,742	70	61,497	77	54,933

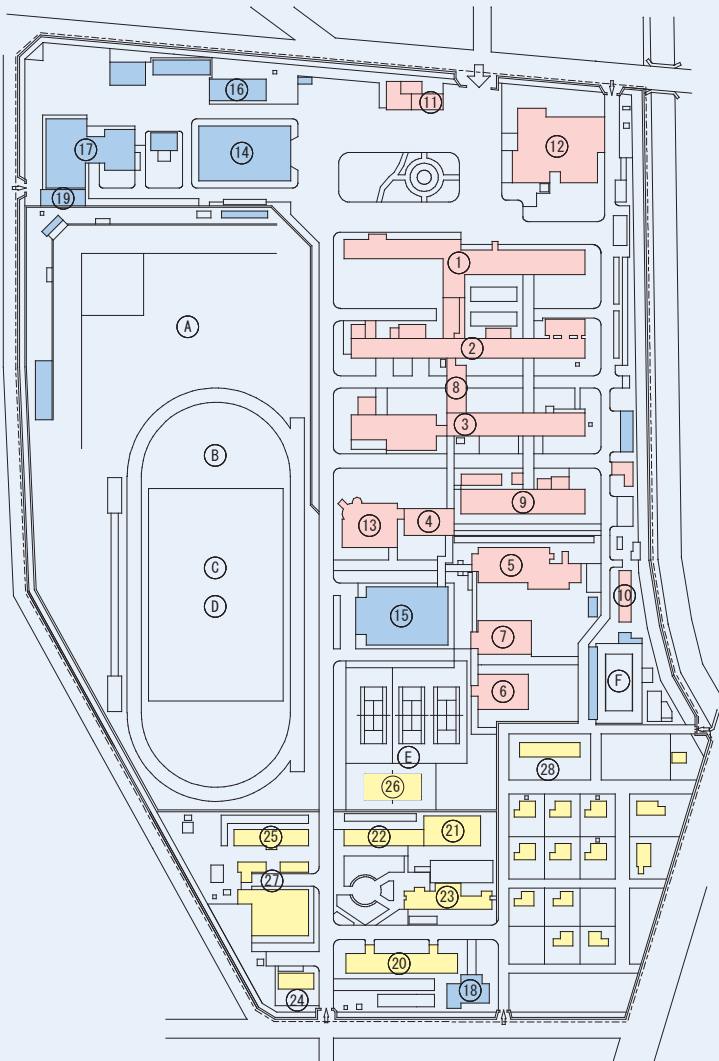
施 設

■ 敷地

使用区分	面積	備 考
校舎等	50,975㎡	野球場、サッカー・ラグビー場、400mトラック、テニスコート(3面)、プール(25m6コース)等
グラウンド等	36,435	
寄宿舍	11,849	
職員宿舎	7,677	
計	106,936	

■ 建物

区 分		構造	延面積
校 舎	一号館	RC3	4,040 ㎡
	二号館	RC3	3,576
	三号館	RC3	3,594
	四号館	RC3	660
	五号館	RC4	2,491
	六号館	RC4	1,155
	専攻科棟	RC4	1,160
	一般教室棟	RC3	620
	テクノセンター	S1	1,001
	水理実験室	S1	253
	環境都市実験付属家	S1	186
	電気実験準備室	S1	63
	建築工作実習室	S1	99
	車庫・守衛所	RC1	191
	図書館	RC2	1,965
	福利施設「伊吹」	RC2	834
	ポイラー室等		1,540
	小計		23,428
体育施設	第一体育館	RS2	1,286
	第二体育館	RC1	885
	武道館	W1	336
	安藤記念館	RC1	789
	合宿所(凌雲荘)	W1	235
	合宿所(第二凌雲荘)	RC1	126
	体育器具庫他		1,233
	小計		4,890
寄 宿 舎	A寮		1,341
	B・C寮		1,543
	D寮		1,388
	管理棟・E寮		303
	F寮		647
	G寮		1,502
	食堂及び浴室他		854
	小計		7,578
職員宿舎			1,448
合 計			37,344



- ① 一号館

② 二号館（環境都市工学科、電気情報工学科）

③ 三号館（建築学科、機械工学科）

④ 四号館

⑤ 五号館（電子制御工学科）

⑥ 六号館

⑦ 専攻科棟

⑧ 一般教室棟

⑨ テクノセンター

⑩ 水理実験室

⑪ 車庫・守衛所

⑫ 図書館

⑬ 福利施設「伊吹」

⑭ 第一体育館

⑮ 第二体育館

⑯ 武道館

⑰ 安藤記念館

⑱ 合宿所（凌雲荘）

⑲ 合宿所（第二凌雲荘）

⑳ A寮
- ㉑ B寮

㉒ C寮

㉓ D寮

㉔ 管理棟・E寮

㉕ F寮

㉖ G寮

㉗ 食堂・浴室

㉘ 職員宿舎

Ⓐ 野球場

Ⓑ 400Mトラック

Ⓒ サッカー場

Ⓓ ラグビー場

Ⓔ テニスコート

Ⓕ プール

各種お問い合わせ

■学生に関するお問合せ

(成績・諸証明)

学生課教務係

kyoumu@gifu-nct.ac.jp (Tel.058-320-1251)

(就学支援金・奨学金)

学生課学生係

gaku@gifu-nct.ac.jp (Tel.058-320-1254)

■入試に関するお問合せ

学生課入試係

nyushi@gifu-nct.ac.jp (Tel.058-320-1260)

■学生寮に関するお問合せ

学生課寮務係

ryoumu@gifu-nct.ac.jp (Tel.058-320-1270)

■図書館に関するお問合せ

学生課図書・情報係

toshojoho@gifu-nct.ac.jp (Tel.058-320-1225)

■産学連携に関するお問合せ

総務課研究協力係

kenkyu@gifu-nct.ac.jp (Tel.058-320-1213)

■総合窓口

総務課総務企画係

souki@gifu-nct.ac.jp (Tel.058-320-1211)
